

## 16 院内各部署の業務実績

院内各所属一覧（掲載ページ）

	ページ	所 属		ページ	所 属	
診 療 部	47	内科統括	看 護 部	100	看護部長室	
	49	代謝一般内科		104	外来	
	50	呼吸器内科		105	在宅医療支援グループ	
	51	消化器内科		106	手術室	
	53	腎内科		107	中央材料室	
	55	神経内科		108	I C U（集中治療室）	
	57	循環器内科		109	3 B病棟	
	59	心臓血管外科		110	4 A病棟	
	60	小児科		111	4 B病棟	
	62	外科		112	5 A病棟	
	64	整形外科		113	5 B病棟	
	65	形成外科		114	6 A病棟	
	66	脳神経外科		115	6 B病棟	
	68	皮膚科		116	7 A病棟	
	69	泌尿器科		117	7 B病棟	
	70	産婦人科		118	3 C病棟	
	72	眼科		事 務 部	119	病院経営課
	74	耳鼻咽喉科			121	病院総務課
	75	放射線科	122		医事課	
	77	麻酔科				
78	病理科					
79	歯科口腔外科					
80	非常勤医師・臨床研修医					
	81	医療安全対策室				
	83	感染対策室（I C T）				
診 療 技 術 部	85	臨床検査科				
	87	中央放射線科				
	89	臨床工学科				
	91	リハビリテーション科				
	94	栄養科				
	96	医療技術科				
	98	薬剤科				

## ■内科統括

---

### 1 診療体制

平成 25 年 4 月の東京慈恵会医科大学からの消化器内科、神経内科常勤医の派遣再開に引き続き、平成 26 年 4 月からは糖尿病・内分泌内科レジデント、血液内科レジデントが増員され、22 人の常勤医による診療体制をとることができた。消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、神経内科の専門医それぞれが高い専門性を発揮すると同時に、相互に協力しながら内科が一体化して多様な疾患に対応する診療体制をとることができた。

### 2 平成 26 年度の診療実績

#### (1) 診療体制の充実

消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、神経内科領域における専門的な診療を行った。

＊糖尿病・内分泌内科と血液内科は代謝一般内科として診療にあたった。

このほか内科系診療科が分担して下記診療を行った。

救急外来当番（平日 9 時～17 時）：これまでと同様平日午前、午後各 1 名が救急外来の診療を担当した。

当直・副直（休日と平日の 17 時～9 時）：これまでと同様当直医 1 名、副直医 1 名としたが、副直医は昨年度に引き続き休日は 9 時から 21 時まで、平日は午後 17 時から 21 時まで病院にとどまり診療にあたった。

初診外来（平日午前）：平成 25 年 4 月より 2 名体制とした。

#### (2) 内科の医局会とカンファレンス

内科医師、特に後期研修医の増加により研修体制の充実を図った。

内科医局会（毎週火曜日 17 時 15 分から 18 時 30 分）：主に連絡事項の伝達、懸案事項に関する打ち合わせ、症例検討を行った。

早朝カンファレンス：水曜朝 8 時からの勉強会を昨年度までの隔週開催から毎週開催とし、後期レジデント、初期臨床研修医を中心に診療知識向上に努めた。

夕方カンファレンス：毎週月曜日午後に主に薬剤の適正使用等に関する勉強会を開始した。

### 3 来年度の課題

(1) 内科疾患全般の診療の要請に応えながら、より専門的で高度な医療を提供できる体制をつくる。

①すべての専門領域において適切な医療が提供できる体制を整備する。

・リウマチ、膠原病内科専門医による診療体制を整備する。

- ・診療ニーズの高い専門領域の医師の増員を図る。
- ②かかりつけ医との医療連携により、専門性の高い医療が提供できる体制を整備する。
- (2) 研修体制の整備  
新・専門医制度に向けて研修体制を整備する。
- (3) 高齢者医療の体制の整備に協力する。

(文責 笠井 健司)

## ■代謝一般内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	藤井 常宏	医長	山城 秀樹
医長	瀧 謙太郎	専任医師	蝶野 慈
専任医師	石井 彰子	専任医師	廣津 貴夫
専任医師	竹田 裕介		

### 2 平成 26 年度の診療実績

#### (1) 外来診察（専門）

藤井医師（悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、自己免疫性血小板減少性紫斑病多発性骨髄腫、急性、慢性白血病等）、瀧医師（糖尿病、内分泌疾患、妊娠糖尿病等）、山城医師（糖尿病、一般疾患）、蝶野医師（糖尿病、妊娠糖尿病、内分泌疾患）

#### (2) 地域連携室経由での紹介外来患者総数

藤井医師 166 名、瀧医師 209 名（前任の比企医師分含む）、山城医師 3 名

#### (3) 主な患者統計（新規患者数）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
糖尿病	464	576	542
悪性リンパ腫	45	56	67
特発性血小板減少性紫斑病	50	54	50
骨髄異形成症候群	40	29	35
多発性骨髄腫	31	19	11

### 3 来年度の課題

- ①外来受診患者への対応：外来患者が多く、開業医からの紹介患者が増加している。予約患者の診察時間がずれ込む状態を少しでも解消できるよう努める。血液専門医が減員となるが、引き続き常勤医師同士が協力し地域の医療に貢献していく。
- ②持続血糖モニターの導入と SAP：糖尿病診療において、地域の拠点病院として貢献するために持続血糖モニター器を導入し 2 年が経過する。持続血糖モニター器も 2 台に増えたことにより、より多くの糖尿病患者さんに対して血糖管理、低血糖予防を行うことができるようになった。同機器を使用し適正なインシュリン量を確定したのちに、地域のかかりつけ医に糖尿病治療を継続していただく。導入した SAP (Sensor Augmented Pump) とは、インスリンポンプに「パーソナル CGM」 (Continuous Glucose Monitoring) 機能を搭載したシステムで、継続的に血糖値を見ることができ、尚且つインシュリンを持続注入することができる機器で、1 型糖尿病患者に対する治療戦略がまた一つ増えた。今後も病診連携を進め、地域の基幹病院として地域医療に貢献していく所存である。（文責 藤井 常宏）

## ■呼吸器内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	木村 哲夫	医長	内海 裕文
専任医師	高橋 直子		

### 2 平成 26 年度の診療実績

呼吸器内科は、一般的な肺炎から当地域に多い気管支喘息・慢性気管支炎・肺気腫といった慢性呼吸器疾患や、肺結核・肺非結核性抗酸菌症・気管支拡張症・肺がん等の診断及び治療を行っている。

気管支拡張症等による喀血に対しては、放射線科に依頼して気管支動脈塞栓術で止血処置を行っている。

また、慢性気管支炎・肺気腫・間質性肺炎等で、慢性呼吸不全状態にある患者に対しては、在宅酸素療法（HOT：Home Oxygen Therapy）を導入し、家庭での酸素投与を可能とし、生活の質の向上を図っている。

肺がんに関しては、気管支内視鏡で診断をつけ、治療は主に静岡がんセンター（駿東郡長泉町）と連携を取り、総合的な治療を目指している。

当院は結核病棟を有しており、近年再び増加しつつある結核に対しても治療を行っている。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
気管支鏡検査	124	93	64

### 3 来年度の課題

平成 27 年度も常勤医師 3 名による診療体制が継続可能となるため、今まで以上に安定した診療を行うことによって、地域医療に貢献する所存である。

（文責 木村 哲夫）

## ■消化器内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	鳥巢 勇一	医長	中野 真範
医長	堀内 洋志	医員	金井 友哉
専任医師	赤須 貴文	専任医師	古橋 広人

### 2 平成 26 年度の診療実績

昨年度の9年ぶりの診療再開から2年目を迎えた。平成26年度も消化器内科は東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科および内視鏡科から派遣された6人の常勤医師および3人の非常勤医師で診療にあたった。診療再開にあたり、7B病棟をリニューアルし、主に消化器内科病棟として運用を開始した。病棟内にエコー室を作り、肝生検やラジオ波焼灼術等は同室で行った。

消化器内科専門外来は月～金曜日の全ての外来診察日で行い、内視鏡診療に関しても定時枠を設置し全ての外来診察日に行った。

夜間・休日の消化管出血に対する緊急内視鏡的止血術は消化器内科医師が主直もしくは副直の際は消化器内科で担当した。その他の日は外科に担当していただいた。

肝生検やラジオ波焼灼術等については7B病棟のエコー室で行った。

	平成 25 年度	平成 26 年度
C型慢性肝炎に対するインターフェロン治療導入	27	26
C型慢性肝炎に対するインターフェロンフリー抗ウイルス剤（ダクラタスビル/アスナプレビル併用療法）導入	-	38
内視鏡治療		
内視鏡的止血術	111	127
食道 ESD	-	1
胃 ESD	15	23
胃 EMR	4	8
十二指腸 EMR	-	4
大腸 ESD	2	10
大腸ポリペクトミー/EMR	84	187

	平成 25 年度	平成 26 年度
胆膵検査・治療		
ERCP	237	248
EBD	135	137
EST	56	83
EPBD	9	7
経皮的ドレナージ	37	79
PTCD	8	10
PTGBD	29	55
PTAD	-	12
肝のう胞ドレナージ	-	2
肝癌治療		
RFA	26 症例 ／37 結節	36 症例 ／49session
PEIT	7 症例 ／7 結節	1 症例 ／1 session
TACE or TAI (放射線科施行を含む)	33 症例 ／45session	41 症例 ／53session

### 3 来年度の課題

診療再開後、当科で診断および治療を受けた患者さんについては疾患別、治療別にデータベースを作ってきた。2年分のデータをもとに様々な解析を行うことにより臨床へ feedback し、今後の前向き研究の土台としたい。

当科の先進的な取り組みを研究会、学会等で報告することにより、近隣医療機関からの紹介率が向上するよう努力をしていきたい。

(文責 鳥巢 勇一)

## ■腎内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	笠井 健司	副部長	宇田川 崇
医長	勝俣 陽貴	専任医師	古谷 麻衣子
専任医師	山本 和佳		

### 2 平成 26 年度の診療実績

これまでと同様に内科全般の診療を行いながら腎臓病診療（慢性腎臓病 CKD ならびに急性腎障害 AKI）を中心に診療を行った。平成 25 年 4 月に発足した富士市 CKD ネットワークによる医療連携が定着し、腎臓病が早期に紹介されることが多くなった。その結果、腎生検とそれに引き続く原疾患の治療を行う症例が増加した。また、富士市透析防災ネットワークにより市内 7 透析施設相互の災害時協力体制が強化されると同時に、透析の医療連携も円滑に行われた。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
血液透析施行患者数	248	293	266
血液透析施行回数	2,682	2,597	2,603
腹膜透析患者数（年度末）	19	25	17
慢性透析導入患者数	72	81	67
血液透析／腹膜透析	67／5	73／8	64／3
急性血液浄化施行患者数	39	37	47
持続血液濾過透析	31	25	25
エンドトキシン吸着	4	7	8
単純血漿交換	1	3	7
二重濾過血漿交換	2	2	3
血液吸着	0	0	0
LCAP	1	0	1

\*急性血液浄化療法施行件数に関しては各科管理の症例を含む

手術件数	82	76	98
血液透析アクセス	70	59	89
腹膜透析アクセス	12	17	9
腎生検	19	37	41
腎臓病教室	12	12	12

CKD 紹介（透析を除く）	169	274	230
---------------	-----	-----	-----



### 3 来年度の課題

内科医数の充足に伴い、腎臓内科として専門性の高い医療を地域に提供できる体制をつくっていく。

#### (1) 富士市CKD（慢性腎臓病）ネットワークへの協力

富士市CKDネットワークにおける腎臓病専門施設としての役割を果たす。

- ① 紹介患者の増加に対応し、腎臓病の早期診断と速やかな治療介入を図る。
- ② 二人主治医制の定着を通して地域の腎臓病診療水準の向上を図る。
- ③ 勉強会、研修会を通して行政、医師会との情報、知識を共有する。
- ④ 市民への啓発活動により、腎臓病に対する認知度を向上させる。

#### (2) 富士市透析防災ネットワークへの協力

災害時透析医療提供体制構築と施設間の連携強化に努める。

- ① 災害時の透析医療機関相互の協力体制を整備する。
- ② 透析患者への防災情報提供に努める。
- ③ 活動を介して地域の透析医療水準の向上につなぐ。

#### (3) 医療水準向上の試み

腎臓病診療の専門性を高める。

- ① V2受容体拮抗薬による常染色体優性多発性嚢胞腎治療の体制を整備する。
- ② ファブリ病の診断、酵素補充療法を定着させる。
- ③ 関節リウマチ、膠原病、血管炎診療における腎臓病リウマチ・膠原病専門医との連携体制をつくる。
- ④ 糖尿病性腎症診療における糖尿病専門医との連携を強化する。
- ⑤ 臨床検査に基づいたきめ細かい栄養指導体制をつくる。
- ⑥ 慢性透析においては計画導入100%を目指す。
- ⑦ 多様な急性血液浄化療法に対応する。

(文責 笠井 健司)

## ■神経内科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	森田 昌代		

### 2 平成 26 年度の診療実績

平成 26 年度は部長と非常勤医師 1 名で外来診療を行った。

外来は、月から木曜日の週 4 回、主に紹介制をとり、物忘れ、しびれ、歩行障害など様々な神経症状を主訴とする患者の診断、治療および経過観察を行った。

入院を要する疾患も多く、内科各科からの協力を仰ぎ、内科主治医制、神経内科常勤医が担当医として治療にあたった。病院統計では内科入院患者として統計をとっている。

#### (1) 疾患別入院患者数

(人)

		平成 25 年度	平成 26 年度
血管障害	脳梗塞／脊髄梗塞	64	85
	脳出血	1	1
	一過性脳虚血発作	4	4
感染・炎症性疾患	脳炎／脳症	6	7
	プリオン病	2	2
	髄膜炎	8	4
変性疾患	認知症	9	1
	パーキンソン病関連疾患	18	14
	脊髄小脳変性症	3	2
	運動ニューロン病	3	1
脱髄性疾患	多発性硬化症／視神経脊髄炎	11	17
末梢神経障害	ギランバレー症候群	1	4
	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4	8
筋疾患	筋炎	5	4
	重症筋無力症	2	5
発作性疾患	てんかん／痙攣発作	75	39
その他		3	27
計		219	225

(2) 特殊検査実績 (件)

	脳波	針筋電図	神経伝導検査
外来	150	11	122
入院	111	4	11

(3) 臨床調査個人票作成

神経疾患の多くは難病として特定疾患治療研究事業の対象となっており、臨床調査個人票の作成総数は新規・更新を併せて 172 件であった。

3 来年度の課題

- ①常勤医の増員
- ②内科入院主治医との連携徹底
- ③教育関連施設申請・認定
- ④神経診療の啓発、教育
- ⑤富士市難病連との交流

(文責 河野 優)

## ■循環器内科

### 1 スタッフ

#### 循環器内科

役 職	氏 名	役 職	氏 名
診療参事	三川 秀文	部長	阪本 宏志
副部長	阿部 裕一	医長	富永 光敏
医長	銭谷 大	専任医師	磯谷 亮太

### 2 平成 26 年度の診療実績

富士地区の循環器疾患の救急医療に対して、心臓血管外科と協力し 365 日体制で当直を配し、看護師、放射線技師、臨床工学技士、臨床検査技師と共にチーム医療で日夜取り組んでいる。平成 26 年度は急性冠症候群に対し緊急冠動脈造影検査を 164 例に施行し、内 129 例に対して経皮的冠動脈インターベンションを施行している。また、心肺停止や心原性ショック例に対しても経皮的な心肺補助法（PCPS）や大動脈バルーンポンピング法（IABP）などの機械的補助装置を用いて積極的に救命に努力している。

外来診療では多列型 X 線 CT 装置（MDCT：256 スライス）および核医学検査などで冠動脈疾患の診断が低侵襲で診断できるようになり、冠動脈造影も 1,034 例に施行し症例数は増加している。多枝病変を有する症例も多く、血管内超音波法（IVUS）、光干渉断層法（OCT）、冠血流予備量比（FFR）等の画像診断を用いて、病変の形態や組織性状の把握、虚血の有無等の評価し、治療に取り組んでいる。

末梢動脈疾患の治療も積極的に行い、総腸骨動脈、大腿動脈、鎖骨下動脈など 46 例にステントを用いた血行再建術を施行した。また、3 例の腎動脈狭窄に対して腎動脈形成術を施行し、血圧の安定が得られ、降圧薬などの薬物療法を必要としない症例も認められた。

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設に認定されており、循環器専門医 4 名、日本心血管インターベンション治療学会認定医 2 名、専門医・指導医 1 名を有し、知識および技術の向上に勤めている。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
冠動脈造影	965	948	1,034
冠動脈インターベンション例	383	359	411
緊急症例（治療）	168（127）	161（128）	164（129）
末梢動脈疾患（腎動脈疾患）	29（5）	32（4）	46（3）

### 3 来年度の課題

循環器内科では薬剤難治性心不全（基礎疾患は陳旧性心筋梗塞、弁膜症、心房細動、拡張型心筋症等）で入退院を繰り返す症例が増加してきた。不整脈の治療としてのアブレーション、植込み型徐細動器（ICD）と共に難治性心不全治療の心臓再同期療法（CRT）等を実施することで、循環器領域で、より積極的な治療が期待できるため、医師の増員、特に不整脈班の医師の派遣を働きかけていきたいと思っている。

（文責 阪本 宏志）

## ■心臓血管外科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	田中 圭（～6月）	部長	織井 恒安（7月～）

### 2 平成 26 年度の診療実績

当院の心臓血管外科は平成 5 年 4 月の開設以来、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、弁膜症、不整脈手術、大動脈疾患（胸部から腹部）、末梢血管疾患（慢性閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞症）に代表される成人疾患を一貫して扱っている。

平成 25 年 8 月から常勤医師の減少により 9 か月間手術を中止していたが、平成 26 年 5 月より心臓血管手術を再開している。現在は、指導教授を含めた東京慈恵会医科大学からの派遣医師 3 名と非常勤医師 1 名の計 5 名体制で日々の診療を行っている。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
先天性心疾患	0	0	1
虚血性心疾患	6	2	6
弁膜症	8	4	13
不整脈	0	0	4
胸部大動脈	1	1	3
腹部大動脈	9	2	9
末梢血管	6	3	19
心臓腫瘍、他	2	0	1
計（重複症例あり）	32	12	56

### 3 来年度の課題

以前当科では、急性大動脈解離や動脈瘤破裂等に対する緊急手術を数多く行っていたが、現在その体制は十分とは言えない。理由としては、常勤医師の減少や手術室の休止（平成 27 年度の一室稼働予定あり）などが挙げられる。今後は、心臓血管外科常勤医師の確保により緊急手術にも対応できる体制を整え、更には血管内治療（ステントグラフト）実施施設の取得に努めたい。

（文責 織井 恒安）

## ■小児科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	瀬川 孝昭	嘱託診療参事	千葉 博胤
副部長	秋山 直枝	医長	日馬 由貴
医長	山田 浩介	医員	玉利 明信（～6月）
医員	相良 長俊（7月～）	専任医師	久保田 淳
専任医師	石川 尊士（～9月）	専任医師	武政 洋一（10月～）

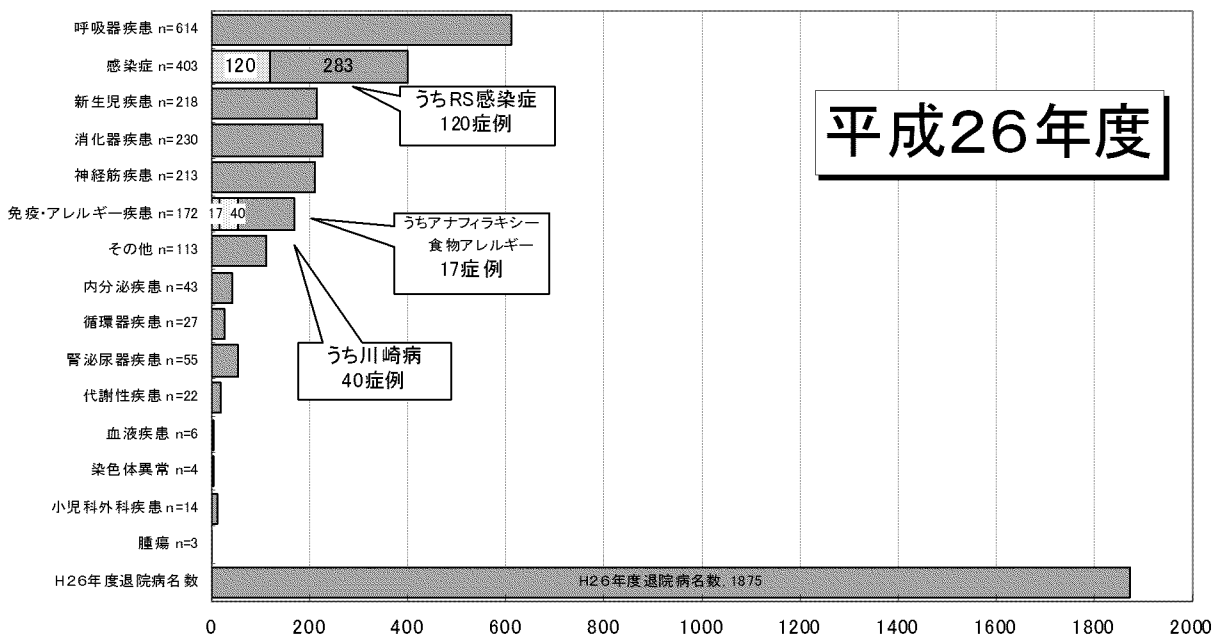
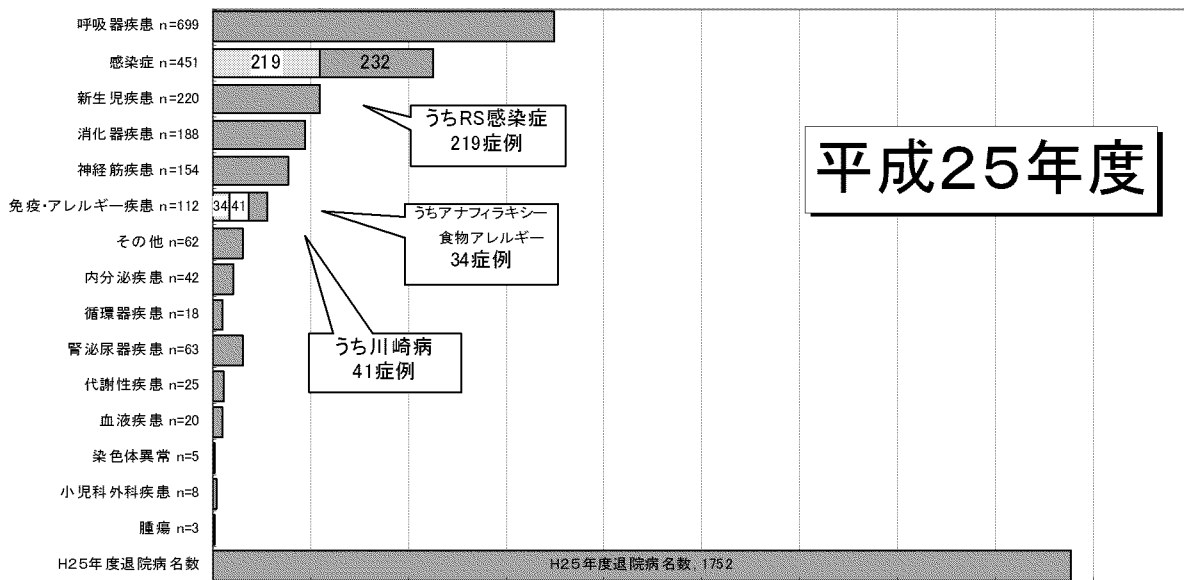
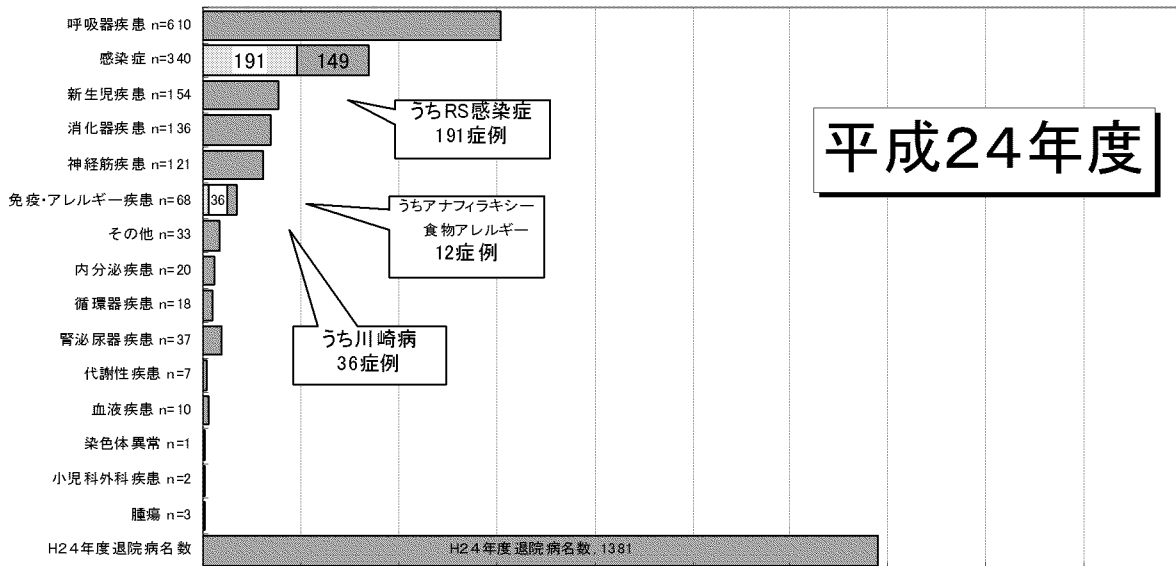
### 2 平成 26 年度の診療実績

当科はこれまでも富士市の中核病院として、新生児医療、一般小児科診療、小児救急の大きな役割を担ってきたが、平成 26 年 7 月に新生児特定集中治療室管理料 2 を取得したことで、従来の新生児治療室は新生児特定集中治療施設（NICU）として生まれ変わり、名実ともに新生児治療の拠点病院となった。富士市周辺地域の小さな命を守るため、24 時間体制の患者受け入れはもちろん、新生児蘇生講習などの教育活動も積極的に行っている。また、患者により良い医療を提供するための「病棟急変シミュレーション」「症例勉強会」をそれぞれ週 1 回ずつ行い、病棟全体のレベルアップを図っている。学会活動も年間 8 例、経験した症例や当科で行われた研究を発表することができ、医療界への貢献も積極的に行われた。平成 26 年度の当科は、今までにない活気に満ちていた。

### 3 来年度の課題

富士市小児科開業医との連携強化は急務である。当院が中心となって開業医との顔合わせできる機会をつくることを計画している。また、静岡県立こども病院と連携し、当科から搬送した重症症例を振り返る機会をつくることも検討している。

（文責 秋山 直枝）





## ■外科

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
副院長	柏木 秀幸	部長	梶本 徹也
副部長	良元 和久	副部長	道躰 隆行
副部長	谷島 雄一郎（～12月）	副部長	坪井 一人（1月～）
医長	兼平 卓（～12月）	医長	北村 博頭
医長	入村 雄也	医長	武田 泰裕
医長	市原 恒平（～6月）	医員	今泉 佑太（～6月）
医員	熊谷 祐（1月～）	専任医師	蝶野 喜彦（7月～）
専任医師	惟松 雅（7月～）		

### 2 平成26年度の診療実績

食道良性手術（アカラシアや逆流性食道炎など）13件、食道がん手術5件、胃・十二指腸良性手術15件、胃がん手術34件、小腸手術（腸閉塞や悪性疾患など）53件、虫垂切除術69件、大腸がん手術87件、大腸良性手術（憩室など）21件、肛門手術（痔疾患など）11件、人工肛門手術57件、そけいヘルニア／腹壁ヘルニア手術118件、胆嚢・胆管結石手術73件、肝臓がん手術7件、膵臓がん手術13件

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
上部消化管	44	44	73
下部消化管	178	252	186
肝胆膵	119	98	97
ヘルニア	121	118	118
呼吸器	23	16	23
乳腺	37	36	39
血管	37	34	22
手術総数	697	766	766
（鏡視下手術）	(123)	(173)	(252)

鏡視下手術の保険適応疾患が増えていること（保険点数は通常手術より高く設定されている）、待機手術だけではなく緊急手術に対しても積極的に鏡視下手術を導入しているため、当科での鏡視下手術は年々増加している。我々は、定期的なビデオカンファレンスを行い、鏡視下手術関連の学会やセミナーに積極的に参加し、動

物を用いたトレーニングを定期的に行い、難易度の高い鏡視下手術の技術の研鑽に励んでいる。鏡視下手術には全身麻酔が必要であり、手術時間が長くなる傾向がある。また、通常の開腹・開胸手術と比較すると多くの手術機器を使用するため、手術の準備には時間を要する。麻酔科や手術室スタッフ、臨床工学技士の協力なくしては成り立たない治療であり、今後も手術に携わるスタッフのご理解とご協力のもと鏡視下手術は増えると考えている。

鏡視下手術は、腹壁あるいは胸壁に通常3～5カ所のポートを留置し、腹腔内あるいは胸腔内に腹腔鏡や胸腔鏡を挿入し、テレビモニター上で、鉗子、電気メスや超音波凝固切開装置などのエネルギーデバイス、自動縫合機や自動吻合器などを用いて行う手術である。鏡視下に行われる操作は、開腹手術あるいは開胸手術で行われる操作と基本的に変わらないが、メリットは多い。患者のメリットとしては、手術創部が小さいため術後疼痛が少ないこと（美容的にも優れること）、それにとともに早期離床が可能になること、結果的に入院期間の短縮や合併症の予防が期待できることなどが挙げられる。Reduced port surgery と呼ばれるポート数の少ない（1～2カ所）鏡視下手術や、より細径の機器を使用することで、鏡視下手術のメリットをさらに高めている。医療者のメリットは、通常の手術と比較すると遙かに大きい視野（24インチ～26インチのハイビジョンモニター）で手術を行うため、拡大視効果による繊細で質が高く出血の少ない手術が可能になることである。モニター上の手術は手術参加スタッフの意思統一を図りやすい、術後録画を見直すことが技術の向上につながる、などの大きなメリットもある。反面、通常手術より手術時間は一般的に長く、ポート経由であるため鉗子操作の制約は多く、テレビモニター上での手術であるため奥行き感が乏しい、といったデメリットがあるが、メリットがデメリットを上回る場合が多いと考えられているからこそ、全国的にも鏡視下手術が増加しているのであろう。

### 3 来年度の課題

外科診療においては、手術を安全、確実、迅速に行うことが重要であるが、手術の合併症対策と悪性疾患に対する術後治療も重要である。当院手術症例には高齢者が多い、合併症患者が多い、緊急手術が多い、など高リスク患者が多く、合併症が無くなることはないが、可能な限り手術合併症を減らす努力を続けていきたい。悪性疾患は手術だけで治療が完結することは少なく、日々進歩する化学療法や放射線療法などの手術以外の治療 modality を適確に選択し運用する技術を身に付けていきたい。

（文責 梶本 徹也）

## ■整形外科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
嘱託診療参事	永井 素大	部長	田邊 登崇（～10月）
部長	加藤 努	医長	村上 宏史（1月～）
医員	坂本 佳那子（～6月）	専任医師	村山 雄輔（1月～）
専任医師	佐藤 龍一（1月～）	専任医師	傳田 良亮（7月～12月）
専任医師	百武 剛志（7月～12月）	専任医師	中島 由晴（～6月）

### 2 平成26年度の診療実績

当院は二次救急病院に指定されており、四肢の骨折や交通事故による多発外傷、高齢者の大腿骨頸部骨折などを多く診療し治療している。

また、外傷だけではなく、変形性股関節症や変形性膝関節症に対する人工関節手術や脊椎疾患などに対する治療も積極的に行っている。人工関節手術などの高額医療に関しては、医療ソーシャルワーカー（Medical Social Worker）と連携し、社会資源を使うことができないか等検討し、少しでも患者さんの経済的負担を軽減するように努めている。

また、頸髄症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなどの脊椎疾患に対しては、手術療法に偏ることなく、保存療法にて症状の軽快を期待できる場合は入院のうえ、硬膜外ブロック注射などを行い、保存療法による根治が期待しにくい場合には手術療法を選択している。その他、膝半月板損傷などに対する関節鏡手術も行っている。

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
人工関節置換術	16	40	35
大腿骨近位部骨折 （骨接合術・人工骨頭置換術）	153	185	249
その他	283	273	324
合計手術件数	452	498	608

### 3 来年度の課題

富士・富士宮地域における手術患者の受け入れを円滑に行えるよう診療体制を整えていきたい。また、今後の目標として人工関節手術件数を増やし、地域の基幹病院にふさわしい質の高い医療を提供できるよう努力する所存である。

（文責 加藤 努）

## ■形成外科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	平川 正彦	医員	森山 壮 (~9月)
医員	塩崎 正崇 (10月~)		

### 2 平成 26 年度の診察実績

平成 26 年度の診療実績は下記のとおりである。(参考：平成 24・25 年度併記)

		入院手術			外来手術			合 計		
		H24	H25	H26	H24	H25	H26	H24	H25	H26
外傷	四肢	69	58	56	94	80	61	163	138	117
	顔面	14	9	10	23	42	35	37	51	45
	熱傷	3	2	1	0	0	0	3	2	1
腫瘍	良性	35	25	40	189	227	182	224	252	222
	悪性	11	14	14	6	8	18	17	22	32
	腫瘍切除後再建	3	0	6	1	0	2	4	0	8
瘢痕・ケロイド		5	9	7	20	14	14	25	23	21
皮膚潰瘍		3	8	6	0	2	2	3	10	8
炎症性疾患		32	24	19	46	50	76	78	74	95
先天異常		7	10	10	5	3	8	12	13	18
総合計		182	159	169	384	426	398	566	585	567

### 3 来年度の課題

- (1) 大学との関係を密にし、医師の増員を図る。
- (2) 関連科との連携を深め、救急患者さんへの対応を充実させる。
- (3) 市外からの救急依頼について対応策を検討する。

(文責 平川 正彦)

## ■脳神経外科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	諸岡 暁	副部長	野田 靖人
医長	坂本 広喜	専任医師	武井 淳（～9月）
専任医師	角藤 律（10月～）		

### 2 平成 26 年度の診療実績

脊椎外科専門医が退職し、脳血管内治療専門医の坂本が赴任。勤務1年間のレジデント（専任医師）が交替した。

平日の多くは常勤医師4人で診療体制を整えている。専門医取得後およびレジデントにとっては、手術を含めて、優れた研修の場として恵まれた環境下にあると言える。

週末休日にも手術に備えて2人で待機しているため、一部休日出勤となるが、万全の体制を整えている。

入院疾患の割合および手術数は表の通り。

#### ①入院疾患別頻度(%)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
くも膜下出血	7	4	5
脳出血	13	12	16
脳梗塞	26	22	15
頭部外傷	33	30	42
腫瘍	-	2	1
脊椎	11	13	1

#### ②手術件数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
頭部手術	74	86	104
1) 開頭手術	20	25	31
2) 神経内視鏡手術	2	3	3
3) 脳血管内手術	4	6	17
脊椎手術	53	49	1

脊椎外科専門医の退職に伴って脊椎脊髄疾患の入院・手術は大きく減少したが、ほぼ同数の外傷疾患が増加した。

出血性脳卒中は微増であるが、未出血での入院・治療が増加した。

血管内治療が常時対応可能となり、MRI施設からの紹介が増加している。

リハビリテーション転院は、脳卒中地域連携パスにより丁度良い時期にできている。

療養転院も MSW の活躍が大きく、長期入院はなくなった。

### 3 来年度の課題

脳血管内手術の紹介範囲をさらに広げる。

重症外傷はドクターヘリの出動により他地域に搬送されることが増えている。当院への搬送を要請していく。

脊椎外科の減少分を埋めるよう、救急の受け入れを積極的に行ない、市内の需要に責任を持って応えていく。

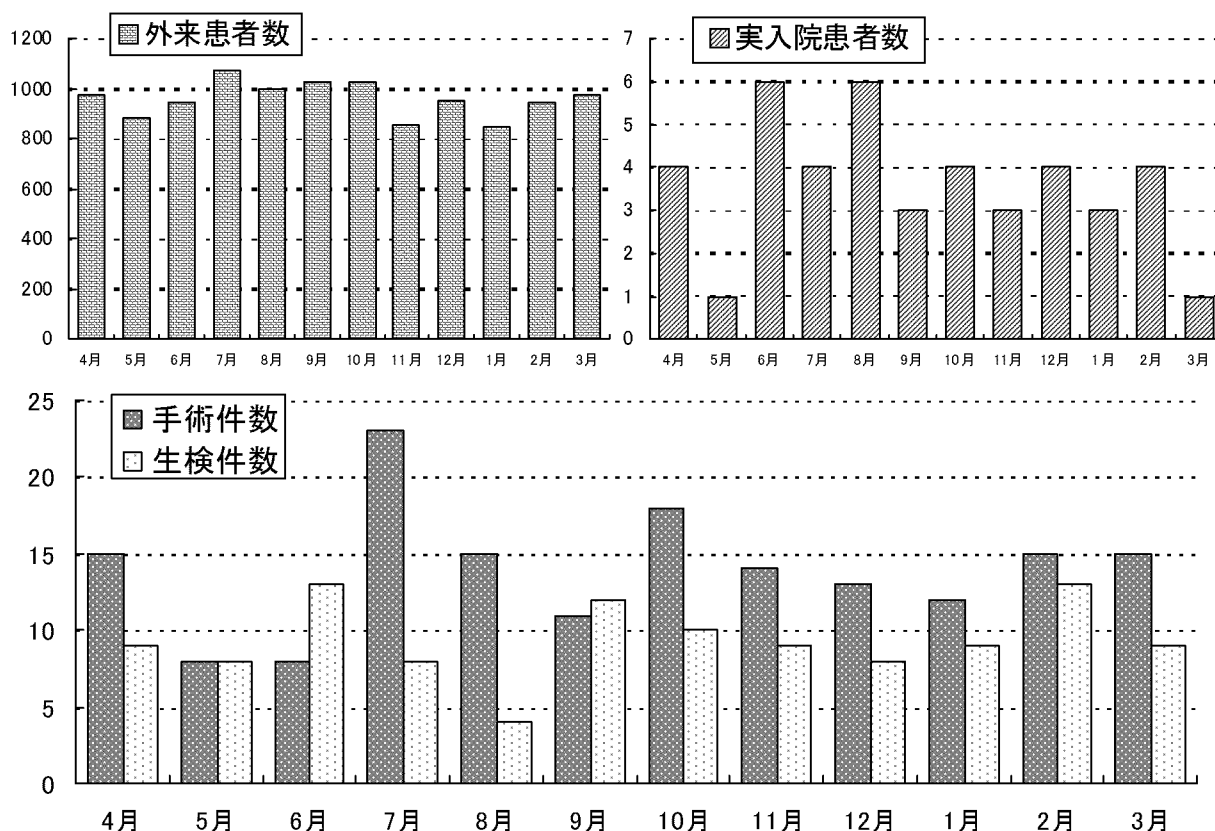
(文責 諸岡 暁)

## ■皮膚科

### 1 スタッフ

役職	氏名	役職	氏名
部長	津嶋 友央	医員	栗原 和生

### 2 平成 26 年度の診療実績



	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
外来患者数	12,433	12,354	11,519
実入院患者数	77	41	43
手術件数	267	239	167
皮膚生検件数	125	128	112

### 3 来年度の課題

外来及び入院患者数に関して、他科との連携を深め、患者数の増加を目指し努力していきたい。入院適応となる症例の場合は、患者の症状にあわせて入院治療を進め、質の高い医療を提供する。

(文責 津嶋 友央)

## ■泌尿器科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
院長	小野寺 昭一	部長	後藤 博一
副部長	鈴木 英訓	専任医師	大林 広輝（～6月）
専任医師	西川 英臣（7月～）		

### 2 平成 26 年度の診療実績

平成 26 年度は常勤医 4 人と非常勤 2 人で診療を行った。今年度も、泌尿器科領域全般の疾患すべてに対応し、泌尿器系の悪性腫瘍に関しては初期治療から緩和医療、終末期治療まで一貫した診療を行っている。さらに、入院診療・手術施行可能な地域中核病院の泌尿器科として、24 時間体制で近隣医療機関からの依頼には必ずファーストタッチを行い、二次診療だけでなく、場合によっては一次診療や三次診療まで行っている。昨年度の新しい放射線治療装置の導入により、前立腺癌の根治照射施行症例も順調に増えており、重篤な有害事象もほとんどなく良好な治療効果が得られている。女性専用の外来では、東京慈恵会医科大学より女性医師が非常勤医師として派遣されており、受診患者数も順調に増加している。

#### 主な手術の年次推移

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
経尿道的前立腺切除術	43	32	51
経尿道的膀胱腫瘍切除術	86	126	116
腎悪性腫瘍手術	19	16	15
膀胱結石・異物摘出術	14	20	18
経皮的腎婁造設術	14	19	23
体外衝撃波結石破碎術	545	538	587
年間手術件数（ESWL 除く）	233	233	289

### 3 来年度の課題

引き続き、東京慈恵会医科大学泌尿器科と連携をとり、派遣医師の増員を要望していく。平成 27 年度からは、外来担当の非常勤医師の派遣が 1 名増員される予定である。前立腺癌や尿路結石症では、根治的腹腔鏡下手術や経尿道的手術ができず、十分な治療に対応できていない状況が続いているため、今以上に大学との連携を深め、あわせて医療機器の充実を図り対応する必要があると考えている。

（文責 後藤 博一）



## ■産婦人科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
副院長	鈴木 康之	医長	矢田 大輔
医員	岸本 彩子	専任医師	伊藤 敏谷
専任医師	井出 瑠衣		

### 2 平成 26 年度の診療実績

地域周産期母子医療センター認定施設、生殖補助医療実施認定施設等、地域の中核病院として機能している。

富土地域におけるハイリスク妊娠、分娩（妊娠高血圧、前置胎盤、切迫早産、早産、多胎妊娠、子宮内胎児発育遅延のほか、各科医師の協力下において糖尿病、腎臓病、血液疾患、呼吸器疾患、自己免疫疾患等の合併妊娠・分娩）を唯一の2次施設として扱っている。緊急帝王切開、分娩後の危機的大出血対応は市内のほぼ全症例に対応している。総分娩数は減少しているが母体搬送受け入れ数は多く、ハイリスク妊娠、分娩数の割合も増加している。小児科および産科スタッフ等との周産期カンファレンスは毎週木曜日に行われている。また、周産期に関する最新医療については浜松医科大学 金山教授に御指導をいただいている。

婦人科良性疾患（緊急手術を含む）手術は麻酔科医師協力のもと腹腔鏡下手術が前年に比し倍増し、開腹手術が減少している。婦人科悪性腫瘍手術は東京慈恵会医科大学 岡本教授の御指導をいただいている。

生殖補助医療（体外受精一胚移植等）は安定した胚発育環境が得られるようになっている。

#### 主な診療実績

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
分娩件数	823	809	700
母体搬送受入数	68	76	95
帝王切開件数	227	208	188
ハイリスク分娩	134	133	133
内視鏡下（腹腔鏡下および子宮鏡下）手術数	81	88	174
良性疾患（開腹及び腔式）手術数	304	284	189
悪性腫瘍手術数	20	24	30
総手術数	618	613	587

生殖補助医療	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
人工授精件数	110	96	108
体外受精件数	72	56	76
融解胚移植件数	65	52	68

### 3 来年度の課題

周産期医療に関しては総分娩数減少傾向であるが、ハイリスク患者さんを可能な限り受け入れており小児科 NICU のベッドが常時満床に近い。当院および富士、富士宮地区の診療所における早産を減らすための啓発を含めた努力をしたい。

婦人科良性疾患手術は内視鏡下手術が増えている。婦人科悪性腫瘍手術と同様に知識と技術を高めることが要求されている。

生殖医療に関しては患者さんの高齢化が進んでおり、妊娠率を向上させるため新しい技術を導入していきたい。胚培養士の養成も必要である。

(文責 鈴木 康之)

## ■眼科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	藤谷 暢子	医長	杉山 敦

### 2 平成 26 年度の診療実績

外来診療は、眼科医 2 名、視能訓練士 2 名、看護師 2 名、医療補助 1 名、受付 1 名で行っている。過度に点眼処方を希望される患者さんには、看護師が点眼指導も行う等、きめ細かい対応を行っている。

基本的に、月・火・木・金曜日は 2 診、水曜日は 1 診である。

午前中は、紹介予約枠を使った紹介初診を最優先とし、9 時から予約診察を行っている。予約外や初診も 11 時までの受付で診察可能である。午後は完全予約検査であり、視野検査、眼位検査、レーザー、蛍光眼底撮影、抗 VEGF 薬硝子体注射、涙点プラグ・鼻涙管シリコンチューブ挿入・霰粒腫等の外来小手術、小児の弱視・斜視外来を行っている。

特に抗 VEGF 薬硝子体注射は、適応の拡大に伴い、件数が増加している。今年は、ラニズマブだけでなく、アフリベルセプトも採用し、選択肢が広がった。

平成 24 年から開始したロービジョン外来も軌道に乗ってきた。月 1 回予約制で、補助具を合わせ、日常生活のアドバイスを行っている。iPad によるロービジョンケアも取り入れており、他院からロービジョン外来宛にご紹介頂くことも増えてきた。

また、平成 26 年から、オルソケラトロジーも開始した。まだ相談のレベルであるが、今後処方が増えるものと期待している。

手術室での手術は、月曜午後と火曜午後に行っている。白内障を中心に、緑内障、翼状片、眼瞼内反症など行っている。

白内障手術は、片眼 2 泊 3 日の入院で行っている。認知症や精神発達遅滞等のために全身麻酔で行う症例も増えている。全身麻酔の症例では、入院は 4 日となる。

硝子体疾患については、月 1 回、山梨大学から専門医を招き、少数ながら万全の体制で手術を行っている。

#### 手術室での眼科手術

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
白内障手術	244	233	205
緑内障手術	7	7	10

硝子体手術	23	18	20
網膜剥離手術	1	0	1
強角膜縫合術	1	0	1
翼状片手術	3	0	3
斜視手術	0	0	0
眼瞼内反症手術	4	4	3
その他	1	5	2
計	284	267	245

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
抗 VEGF 硝子体注射	18	62	108

### 3 来年度の課題

手術については、近隣に手術を行う眼科が多く、当科で行うものは全身状態が悪かったり、難しい症例が多く、限られた時間枠で手術件数を大幅に増やすことは難しいが、平成 26 年度より増加を目指す。「患者さんのために」を第一に考え、手術の適応を拡大しないで、手術件数を増やすための方法を考えていきたい。

当科の位置付けとしては、他院・他科との連携である。開業医の先生との連携をもっと密にするよう工夫したい。他科とも積極的にコミュニケーションを取り、多方向からの加療を目指す。

また、ロービジョン外来については、まだ周知が不十分と思われる。今後もっと周知を徹底し、他院に通院している患者さんの受け入れも進めていきたい。

オルソケラトロジーも軌道に乗せたい。また、多焦点眼内レンズや ICL 近視矯正手術といった過去に行ってこなかった治療にも、今後取り組む予定である。そのためにも、視能訓練士の増員を要望している。

(文責 藤谷 暢子)

## ■耳鼻咽喉科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	重田 泰史	医長	森本 宰充
医員	宇野 匡祐		

### 2 平成 26 年度の診療実績

耳鼻咽喉科は3人体制で、耳、鼻、咽喉頭、頸部の診断・治療を幅広く行っている。午前中は一般外来を行い、特別な治療や処置が必要となる患者さんは、午後に来ていただき治療、処置を行っている。手術日は火・水・金の週3日間で、高度な技術を必要とする手術は東京慈恵会医科大学の医師を招聘し行っている。進行癌症例は静岡県立静岡がんセンターと連携している。また当科の特色として嚥下障害患者に対する診断・治療を積極的に行い、院内の絶食患者のより安全な経口摂取の再開を目指している。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
嚥下機能評価患者	328	288	196
内視鏡下鼻内副鼻腔手術	95	88	114
鼻中隔矯正術	33	42	77
口蓋扁桃摘出術	121	76	140

### 3 来年度の課題

昨年度スタッフの異動等があり、手術件数が若干減少したが、今年度はスタッフの頑張りにより手術件数を大幅に増やすことができた。来年度にもスタッフの異動があると思われるが手術件数を減らすことのないようにしたいと考えている。

(文責 重田 泰史)

## ■放射線科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
医長	松井 洋		

### 2 平成 26 年度の診療実績

昨年度と同様に CT、MRI、RI に関しては可及的迅速な全件読影を行っており、画像診断管理加算 2（CT/MR/RI の 8 割以上の読影結果が常勤専門医により遅くとも撮影日の翌診療日までに主治医に報告されていることを条件に 1 件あたり 180 点算定ができる）の算定施設基準を維持することができた。

IVR に関しては依然として TAE を中心に豊富な症例を行うことができ、なおかつ平成 26 年 6 月より最新機種である SIMENS Artis QBA Twin が導入され、AngioCT ガイド下でも様々な検査が行えるようになった。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
IVR	194	138	178
血管系 IVR	84	77	103
肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法/肝動脈動注化学療法 (TACE/TAI)	46	31	42
緊急経カテーテル的動脈塞栓術 (TAE)	10	15	22
気管支動脈塞栓術 (BAE)	5	1	2
透析シャント血管形成術 (PTA)	12	7	0
その他経カテーテル的動脈塞栓術 (TAE)	2	7	4
内臓動脈瘤コイル塞栓術	1	1	1
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 (B-RTO)	3	1	3
帝王切開術前両側内総腸骨動脈バルーン閉塞術	0	0	0
経皮経肝的門脈塞栓術 (PTPE)	1	0	1
血管内異物回収	1	0	0
PIC カテーテル留置	2	12	18
急性膵炎持続動注療法	1	0	3
その他 (リザーバー挿入)	-	2	0
静脈サンプリング (AVS, ASVS, 下錐体静脈洞サンプリング)	-	-	7
非血管系 IVR	110	56	65
経皮的胆道ドレナージ (PTBD)	37	10	9
画像誘導下膿瘍ドレナージ (PTAD)	31	27	42
画像誘導下生検	18	12	11

肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術（RFA）	13	3	1
胆管ステント留置	4	3	0
肝細胞癌に対する経皮的エタノール注入療法（PEIT）	7	1	0
硬化療法	-	-	1
血管造影のみ	3	5	10

#### 読影件数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
総読影件数	28,879	31,800	32,509
CT	16,774	18,214	19,187
MRI	4,652	5,552	5,378
US	6,076	6,206	6,837
アイソトープ	921	982	805
単純X線撮影	456	846	302

#### 病診連携件数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
高度医療機器利用依頼	1,370	1,680	1,598

#### 放射線治療人数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
患者数	95	83	275
頭頸部	12	2	21
胸部	28	38	104
腹部	4	3	28
骨盤	34	23	75
骨軟部	17	17	47

### 3 来年度の課題

- ・他科との連携をさらに密にしていく。
- ・IVR 業務の拡充（Angio CT を用いた新たな治療）。
- ・読影管理加算 2 の算定施設基準を維持する。
- ・病診連携（高度医療機器利用依頼）にさらに力を入れ、逆紹介率向上に貢献する。

（文責 松井 洋）

## ■麻酔科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
副部長	銅谷 実	医長	飯田 瑠梨（3月～）
専任医師	影山 佳世（1月～）		

### 2 平成 26 年度の診療実績

過去 3 年間の麻酔科管理症例数の推移は下表のとおりである。

平成 27 年 1 月と 3 月に、常勤医師 2 名が増員となり、麻酔医の常勤体制は大幅に充実してきている。

しかし、当院は午前以外来診療を行っていることから、午後からの手術の開始時間に影響を及ぼし、緊急手術が円滑に受け入れられないことがある。このような状況を打開し、可能な限り日勤帯の常勤麻酔医で対応できるよう他科の協力を望む。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
麻酔科管理総数	1,357	1,455	1,573
全身麻酔 (他の麻酔法の併用を含む)	1,269	1,446	1,517
硬膜外麻酔・脊椎くも膜下麻酔 (どちらか一方・両者併用を含む)	17	7	7
その他	71	2	49

### 3 来年度の課題

平成 27 年度より手術室の稼働数を増加する計画があるため、円滑な手術進行と正常な稼働率を維持するための検討を病院全体で考える必要があると思う。

また、今後も麻酔医の人員配置に関しては、症例数に見合った人員を的確に確保し、病院経営に資することを目指したいと考える。

(文責 銅谷 実)



## ■病理科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	遠藤 泰彦		

### 2 平成 26 年度の診療実績

病理組織診断	4,531 件
（内、術中迅速診断）	100 件
細胞診断	3,952 件
病理解剖	8 件
CPC 開催	年 4 回
各診療科とのカンファレンス	多数

常勤医師 1 名、非常勤医師 1 名、臨床検査技師・細胞検査士 4 名、医師事務作業補助者 1 名を含めた構成で業務を行っており、場合によっては東京慈恵会医科大学との連携のもと診断を行うこともある。過去 3 年の実績をご覧頂くとわかるが診断件数は年々明らかに増加してきており、また免疫染色の件数に関しても明らかな増加が認められる。

### ※ 過去 3 年間の診断件数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
組織診断	4,132	4,497	4,531
（内、術中迅速診断）	(59)	(99)	(100)
細胞診断	3,948	4,196	3,952
病理解剖	8	13	8
計	8,088	8,706	8,491

### 3 来年度の課題

当科は市内唯一の“病理科”である。当科での診断によって病名が決定し、患者さんの今後の治療方針が決まる。患者さんと接する機会はほとんどないが、とても重要な責務を担っていると自覚している。

病理科の存在がどれだけ重要であるかしっかりと受け止め、患者さんにより質の高い医療を受けていただけるよう、今後も診断していく所存である。

(文責 遠藤 泰彦)

## ■ 歯科口腔外科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
部長	勝山 直彦	医長	井出 正俊
医員	近藤 道人	臨床研修医	結城 百合子 (8月～3月)

### 2 平成 26 年度の診療実績

地域基幹病院の口腔外科として主に難抜歯、外傷、炎症、腫瘍、嚢胞、粘膜疾患、奇形・変形の手術を行っている。当科は、一般開業医では処置困難な症例を扱い、通常の歯科治療は行っていない。

平成 26 年度外来局所麻酔手術は、1,805 例であった。

全身麻酔または静脈麻酔の症例は、難抜歯が最も多く、次いで嚢胞、外傷の順であった。

#### 全身麻酔または静脈麻酔症例（外来局所麻酔は除く）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
難抜歯	53	76	110
嚢胞	18	12	12
外傷	7	5	8
その他	44	59	38
計	122	152	168

### 3 来年度の課題

今後、地域基幹病院の口腔外科として地域医療機関と密な連携を図り、手術症例を増やしたいと考えている。平成 26 年度と同様に、顎変形症については、県東部の歯科矯正医との連携をとり症例を増やす予定である。

また、周術期口腔ケアを開始したので、今後各科と連携し充実させる。

地域基幹病院としての使命を果たすべく、富士市民のために質の高い医療を提供できるよう研鑽・努力していきたいと思う。

(文責 勝山 直彦)

## ■非常勤医師

(平成 26 年 4 月 1 日現在)

所 属	氏 名	所 属	氏 名
代謝一般内科	谷口 幹太	代謝一般内科	比企 能人
消化器内科	梶原 幹生	内科（内視鏡）	内山 勇二郎
内科（内視鏡）	加藤 正之	内科（内視鏡）	佐野 秀弥
神経内科	河野 優	精神神経科	品川 俊一郎
精神神経科	三宮 正久	精神神経科	古川 愛造
心臓血管外科	橋本 和弘	心臓血管外科	木南 寛造
心臓血管外科	高木 智充	小児科	若林 太一
外科（内視鏡）	増田 勝紀	外科（内視鏡）	宮川 朗
外科（呼吸器）	森川 利昭	脳神経外科	秋山 雅彦
泌尿器科	阿部 和弘	泌尿器科	平本 有希子
産婦人科	金山 尚裕	産婦人科	廣中 由紀
産婦人科	伊熊 ことみ	産婦人科	原 信
放射線科	竹永 晋介	放射線科	大木 一剛
放射線科	東條 慎次郎	放射線科	渡嘉敷 唯司
放射線科	成田 賢一	放射線科	清水 敦夫
放射線科	福田 健志	放射線科	道本 顕吉
放射線科	完山 依里子	放射線科	北井 里美
放射線科	五味 拓	放射線科	小宮山 貴史
放射線科	野中 穂高	麻酔科	井上 恒佳
麻酔科	國吉 英樹	麻酔科	村上 裕一
麻酔科	篠原 仁	麻酔科	伊藤 健作
麻酔科	大谷 法理	麻酔科	渡邊 薫
麻酔科	渡邊 朋子	麻酔科	梁木 理史
麻酔科	廣井 一正	麻酔科	岩崎 紗世
麻酔科	市川 希帆子	麻酔科	浅越 佑太郎
麻酔科	久良木 ルーテ彩来	病理科	千葉 諭
歯科口腔外科	阿部 恵一	歯科口腔外科	森永 桂輔
歯科口腔外科	神谷 圭祐	歯科口腔外科	砂田 勝久
歯科口腔外科	小林 清佳		

## ■臨床研修医

氏 名	採 用 期 間
一場 剛	平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
結城 百合子	平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

## ■医療安全対策室

### 1 スタッフ

役 職	氏 名
医療安全対策室長兼副看護部長(医療安全担当) 兼専従リスクマネジャー	田中 稔
医療補助員	佐野 順子

### 2 平成 26 年度の業務実績

#### 1) インシデント・アクシデントレポートの集計、分析

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
報告件数	2,488	2,834	3,310

#### 2) 医療安全情報

- ・「緊急時、注射薬の誤注入事例」「術後の腓骨神経麻痺事例」の対策周知
- ・「手術・検査における内服薬中止時の手順（外来）」医局会で周知
- ・「指示出しマニュアル（医師用）」医局会で周知
- ・「転ばないための靴の選び方」ポスター作成
- ・院外からの安全情報を関係部署に周知

#### 3) 巡回および再発防止策

- ・病棟浴室脱衣所に背もたれ椅子および手すりの設置（転倒防止）
- ・廊下手すりカバーの修理（営繕依頼）
- ・病棟トイレの鍵の保管場所および外からの開錠方法の周知
- ・エスカレーターでの転倒注意表示の変更
- ・酸素ボンベ保管場所の点検（医療ガス安全管理委員会と共同実施）

#### 4) 医療安全活動（改善内容）

- ・薬剤・製剤リスク防止強化月間（6～8月）
- ・患者誤認防止強化月間（9～10月）
- ・インシデント・アクシデントレポートにオカレンス報告の追加
- ・「輸血拒否患者に対する職員の対応マニュアル」作成
- ・「スタッフコールマニュアル」改訂

#### 5) 医療安全に関する意識調査アンケート実施

全職員を対象に配布し、770名より回答があった。（前年度680名）

#### 6) 医療安全推進週間の活動

期間：平成26年11月23日～29日

「患者誤認防止」をテーマに全職員に標語を募集（総数151件）し、優秀作品を電子カルテのトップページに掲示、また全職員の名札に入れ医療安全の意識を高めた。

- 7) 医療安全研修（リスクマネジメント部会）
  - ・テーマ：「安全を守るコミュニケーション ～情報共有の重要性～」  
平成 26 年 6 月 23 日 161 名参加
  - ・テーマ：「報告・連絡のためのコミュニケーションツール ～SBAR～」  
平成 27 年 2 月 20 日 139 名参加
- 8) RM たより発行（毎月・専従 RM コーナー記載）
- 9) 医療安全対策室たより発行（12 回）  
看護部リスクマネジメント担当委員会配布
- 10) 医療安全相談 3 件
- 11) 各委員会、各部署との調査・相談 9 件

### 3 来年度の課題

「医療安全対策マニュアル」が周知・遵守されていないことが課題である。来年度は、特に「患者誤認防止」を医療安全推進週間の重点事項として活動する。また、インシデント・アクシデントレポートの原因「マニュアルの逸脱」と転倒転落の受傷の程度「重症」のゼロを目標とし活動する。

（文責 田中 稔）

## ■感染対策室（ICT）

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
室長	後藤 博一（泌尿器科）	専従	増田 満伯（感染対策専従看護師）
メンバー	18名（兼務）		

### 2 平成 26 年度の業務実績

- (1) ICT会議 12回（毎月1回、第4水曜日）
- (2) 日本環境感染学会認定教育施設の認定を取得
- (3) 感染対策室（ICT）による各部署のラウンドを実施

ICTラウンドは毎週水曜日に30項目に対して評価を行っている。適切な指導と職員一人ひとりが迅速な対応で改善策に取り組んだ結果、年間の全ラウンド平均点は28.6点と昨年度より0.9点上昇した。

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
ICTラウンド平均点	27.5	27.7	28.6

### (4) ICT主催による職員対象感染対策研修会の開催

#### ①内 容：「ICT活動のコツを考える」

開 催 日：平成 26 年 7 月 31 日（木）

講 師：東京慈恵会医科大学附属病院

感染対策室 副室長 美島 路恵 氏

参加人数：155 人

#### ②内 容：「エボラウイルス疾患対策」

開 催 日：平成 26 年 11 月 17 日（月）

平成 26 年 12 月 5 日（金）

講 師：感染対策専従看護師 増田 満伯（ICTメンバー）

参加人数：284 人

#### ③内 容：「抗菌薬の適正使用について」

開 催 日：平成 27 年 2 月 2 日（月）

講 師：東京慈恵会医科大学附属柏病院

感染制御部 診療部長 吉田 正樹 氏

参加人数：104 人

(5) 感染対策地域連携カンファレンスの開催【全4回実施】

感染防止対策加算2の医療機関【芦川病院、川村病院、湖山リハビリテーション病院、富士脳障害研究所附属病院、富士整形外科病院、大富士病院】と連携し、感染防止技術の向上や最新知見の周知に貢献した。

開催日時

- ①平成26年 5月21日(水) 18時より 中央病院(大会議室)
- ②平成26年 8月27日(水) 18時より 中央病院(大会議室)
- ③平成26年 11月26日(水) 18時より 中央病院(大会議室)
- ④平成27年 2月25日(水) 18時より 中央病院(大会議室)

(6) 感染防止対策地域連携加算を取得し共立蒲原総合病院、富士宮市立病院との相互評価を実施

- ①平成26年 12月 2日(火) 共立蒲原総合病院の評価(富士市立中央病院が訪問)
- ②平成27年 1月14日(水) 富士市立中央病院の評価(富士宮市立病院が来院)

(7) サーベイランスの実施

- ①検出菌サーベイランス【JANIS】
- ②SSIサーベイランス【JANIS】
- ③手指衛生指数サーベイランス

3 来年度の課題

平成27年度においてもICTによる各部署のラウンドを継続して行い、職場の環境改善と経路別予防策の遵守率向上を図り、医療関連感染の発生低減に努めていく。

さらに、感染防止対策の遵守向上のため、職員の教育、マニュアルの評価修正、コンサルテーション、サーベイランスの強化を図っていく。

日本環境感染学会認定教育施設として地域と緊密な連携をとり、感染対策強化を推進していく。また、近隣施設からの相談等にきめ細かく応じ、地域医療の向上に貢献していく。

(文責 後藤 博一)

## ■臨床検査科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
技師長	高橋 昌子	副技師長	石川 隆之
参事補兼主任	渡辺 修	参事補兼主任	鈴木 雅人
主任	大芝 孝次	主任	鈴木 英昭
主任	渡邊 由喜子	主任	小野 美代子
主任	岩崎 佐知子	主査	遠藤 聡
主査	長峰 誠一郎	主査	野田 文子
主査	佐野 僚子	主査	石井 孝良
主査	渡邊 広明	上席技師	山本 純子
技師	大野 真一	技師	手老 真弓
技師	渡辺 真理子	技師	内野 有子
技師	清 亜矢	技師	竹下 翔太
技師	渡邊 恭子	技師	阿部 愛
技師 (R)	加藤 才子	技師 (R)	加藤 加代子
技師 (R)	左原 泰子	技師 (R)	後藤 隆広
技師 (R)	宇佐美 由紀子	技師 (R)	岡田 美里
技師 (R)	中山 智美	技師 (R)	尾形 裕以
技師 (R)	遠藤 清恵	医療補助員	芹澤 好子
BML事務員	原 久美		

※ (R) は臨時職員

### 2 平成 26 年度の業務実績

血液検体件数：体外受精件数：輸血製剤総数：剖検数の推移

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
検体総件数	1,969,719	2,147,875	2,361,193
人工受精 (A I H)	110	106	101
体外受精 (I V F)	78(3ヵ月休止)	105(融解含む)	78
妊婦健診 (エコー)	3,242	2,493	2,079
輸血総数 (単位+本数)	16,132	16,694	19,391
剖検数	8	13	8



- ・高感度 HBs 抗原定量測定を開始し、上限 15 万 IU/ml の測定を可能にした。
- ・LH 黄体形成ホルモン検査の院内測定を開始した。
- ・妊婦検査経口ブドウ糖負荷 50gGCT テストを開始した。
- ・ヒトメタニューモウィルス抗原検出検査を開始した。
- ・インフルエンザ検査の判定に自動検出装置を導入した。
- ・検査依頼属性の切り替え業務を代行入力とし、採血待ち時間の削減を行った。
- ・通院治療室患者と造影 CT, MRI 患者の検査結果を迅速に報告するため、優先採血を開始した。
- ・病理検査自動包埋装置を SAKURA Tissue-Tek VIP に更新した。
- ・自動血球洗浄クームス遠心装置を MC450 に更新した。
- ・自動採血管準備装置を BC・ROBO-8000 に更新した。

<各種認定等資格取得者状況>

名 称	人数	名 称	人数	名 称	人数
細胞検査士	5 名	認定輸血検査技師	2 名	認定血液検査技師	2 名
認定一般検査技師	1 名	認定超音波検査士	4 名	生殖補助医療胚培養士	3 名
体外受精コーディネーター	1 名	日本糖尿病療養指導士	3 名	心臓リハビリテーション指導士	1 名
緊急臨床検査士	1 名	健康食品管理士	1 名	未病専門指導師	1 名
認定心電検査技師	2 名	栄養サポートチーム専門療法士	1 名		

※26 年度 新たに超音波検査士 1 名、栄養サポートチーム専門療法士 1 名取得

3 来年度の課題

- ・臨床や他部門からの様々な要望に応えるため、全員の技師が何らかの認定専門資格取得に向けて挑戦できるよう職場の環境作りを心掛け、人材育成を目指したい。
- ・外来採血患者数の増加に伴う採血の待ち時間を減らすため、システムの改良や採血台を増やすなどの設備、体制改善を積極的に行っていききたい。
- ・体外受精の件数が増加する中、診療部、看護部とのチーム医療を更に確立し、不妊治療に貢献できるよう業務や人員配置の改善を行いたい。
- ・診療部と連携し院内での新規測定項目を積極的に追加していききたい。

(文責 高橋 昌子)

## ■中央放射線科

### 1 スタッフ

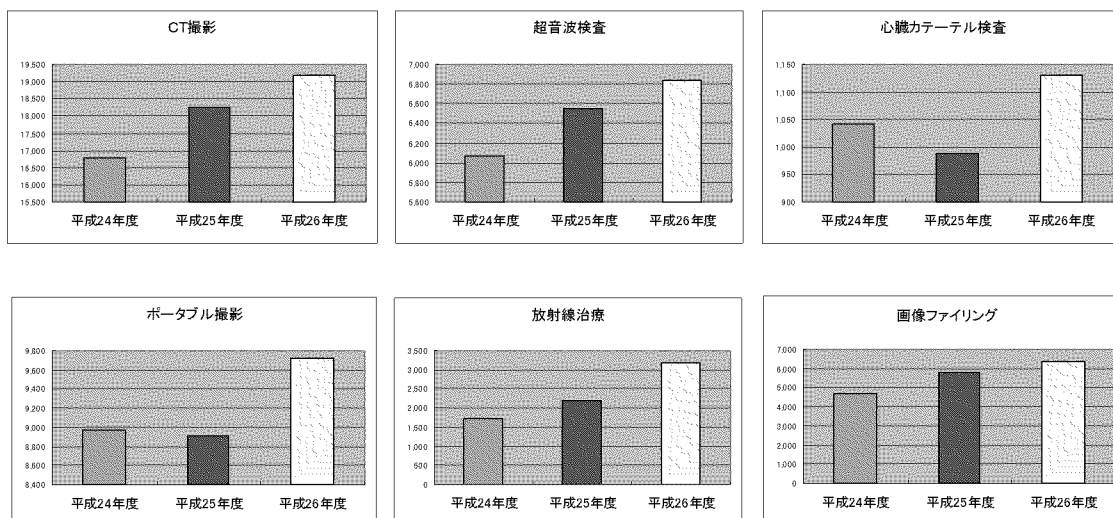
役 職	氏 名	役 職	氏 名
技師長	井出 宣孝	副技師長	高木 省一
参事補兼主任	清水 則雄	参事補兼主任	遠藤 佳秀
参事補兼主任	遠藤 一弘	主任	池谷 幸一
主任	鈴木 和訓	主任	菅原 和仁
主任	杉山 伸一	主任	鍋島 雄和
主査	井出 敦之	主査	酒井 理香
主査	稲垣 伸一	上席診療放射線技師	澤口 信孝
上席診療放射線技師	大森 知恵	上席診療放射線技師	太田原 絢子
診療放射線技師	秋田 真弓	診療放射線技師	神田 直樹
診療放射線技師	大野 純希	診療放射線技師	増田 裕司
診療放射線技師	岡根谷 侑	診療放射線技師	湯山 桃子
診療放射線技師	岡田 和教	診療放射線技師	猪股 崇亨

### 2 平成 26 年度の業務実績

(人)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
一般撮影	32,542	33,302	32,816
乳房撮影	404	424	414
ポータブル撮影	8,973	8,910	9,722
心臓カテーテル検査	1,041	989	1,129
その他血管造影	103	134	198
C T 撮影	16,787	18,247	19,187
M R I 検査	4,652	5,558	5,378
アイソトープ	920	990	808
骨塩定量	196	212	226
T V 撮影	1,119	1,064	949
結石破砕	544	538	591
放射線治療	1,712	2,183	3,171
口腔外科撮影	2,283	2,277	2,311
超音波検査	6,076	6,551	6,837
画像ファイリング	4,712	5,818	6,390
妊婦検診数	3,241	2,493	2,079

※撮影・検査等を行った実患者数



- ・ 7月より夜間、休日の脳梗塞疾患におけるMRI検査を行い、実績は94件で今後拡大していく傾向である。
- ・ 手術室運営委員会より開胸腹した症例に対して術後ポータブル撮影の依頼があり対応する。また、整形外科の手術件数が増加し撮影検査は1,627件であった。
- ・ 消化器内科、神経内科の常勤医師配置により、CT、超音波検査は昨年実績を大幅に更新し、心臓カテーテル検査、血管造影等の検査も増加が見られた。
- ・ 脳血管内治療が6月より開始され昨年度実績で15件、高度な血管内治療への対応を図り、チーム医療に貢献できるような体制を構築した。
- ・ 高エネルギー放射線治療装置の患者数142人、照射件数は3,366件で、前年度を大幅に更新し、地域がん診療連携拠点病院取得に向け努力している。

### 3 来年度の課題

平成27年度 目標

「笑顔で挨拶 気配りの医療」

明るく笑顔で挨拶、優しく患者さんをいたわる気配り、職員間の気配りも大切に

- ・ 最近の放射線診断機器・治療機器は、著しく早いテンポで進歩している。これらを用いて先進的な医療を実現するためには、知識の習得・技術の向上はもとより、他の部門のスタッフとの連携も重要であり、全てのスタッフがチーム医療の一員としての自覚を持ち、患者さん中心の医療を実現するように努める。
- ・ 我々は病診連携（高度医療機器利用）の充実をはかり、検査ニーズに応えるべく地域医療レベルの向上に努める。

（文責 井出 宣孝）

## ■臨床工学科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
技師長	西田 英明	副技師長	山元 義雄
上席臨床工学技士	佐野 達哉	上席臨床工学技士	勝間田 賢
上席臨床工学技士	諏訪部 新	臨床工学技士	杉山 弘一

### 2 平成 26 年度の業務実績

年度	手術室業務			心カテ室業務 (* 3)	ペースメーカー 関連
	臨床業務 (* 1)		保守点検業務 (* 2)		
	定時	緊急			
24 年	33	4	502	976	508
25 年	21	0	496	939	491
26 年	43	4	476	1,018	576

年度	ME 機器室業務 (* 4)			血液浄化療法業務 (* 5)
	呼吸器関連	心電図モニター 関連	輸液ポンプ・ 吸引関連	
24 年	1,680	136	6,992	168
25 年	1,430	123	6,666	72
26 年	1,290	20	6,843	59

#### ME 機器 教育研修実績

区分(回数)	年度	24 年	25 年	26 年
呼吸器・輸液ポンプ・IABP・CHDF 等取り扱い勉強会		23	5	19
手術室 ME 機器勉強会		11	10	6

- \* 1 主に心臓外科手術人工心肺操作、心臓血管外科・整形外科・脳神経外科などの自己血回収装置操作、PCPS 操作。
- \* 2 主に麻酔器、気化器、炭酸ガスモニタ、IABP、PCPS、人工心肺装置、血液ガス分析装置、除細動器の保守点検。
- \* 3 心カテ室業務は総数。ペースメーカー (PM) 関連は「PM 外来」、「植え込み術」、「植え込み患者手術立会」、「植え込み後チェック」。
- \* 4 ME 機器室業務。主に呼吸器組立、心電図モニター、輸液ポンプ類点検。
- \* 5 主に CHDF、PMX、PE、透析室以外での血液透析。(平成 24 年度から CHDF 症例数)

### 3 来年度の課題

平成 26 年度より心臓血管外科手術が再開された。手術件数増となり、年末には緊急手術も行われた。心臓カテーテル、ペースメーカー関連の件数も増えている。

血液浄化においては、神経疾患に伴う血液浄化（DFPP）、腹水濃縮（CART）の件数が増えている。

このような状況の中、人工心肺操作においては、「体外循環技術認定士」の複数資格取得を目指す。また、様々な臨床業務遂行に際し、呼吸療法認定士、透析技術認定士などの有資格者のさらなる知識・技術の向上にも努めていきたい。

（文責 西田 英明）

## ■リハビリテーション科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
技師長（理学療法士）	藤本 浩二郎	主任（作業療法士）	中村 公美
主査（理学療法士）	和泉 裕美子	主査（理学療法士）	深澤 史朗
上席言語聴覚士	幾嶋 邦人	上席作業療法士	竹川 圭亮
言語聴覚士	石井 玲奈	作業療法士	其田 かなた
理学療法士	山田 将史	理学療法士	加藤 智乃
理学療法士	永嶋 泰玄	理学療法士	梅原 健人
医療補助員	鈴木 千智世		

### 2 平成 26 年度の業務実績

- ・入院・外来患者に対するリハビリ単位数（単位数は別紙参照）
- ・毎週金曜日のリハビリ回診への参加（PT, OT, ST 交代制）
- ・褥瘡、NST、呼吸器、嚥下、緩和チームに入り、回診にそれぞれ参加するようになった。
- ・患者、家族、ケアマネージャー等他スタッフとのカンファレンスへの参加
- ・スタッフ間の治療技術、知識の共有を図るためのリハビリテーション科勉強会を月に一度開催
- ・学術研究（理学療法士協会主催の講習会で症例報告発表や実技アシスタントを行う）
- ・看護学校での講師、市民向けの出前講座（嚥下リハ 1 回、転倒予防 1 回、高次機能障害 3 回、認知症 1 回）
- ・年間依頼件数 1,875 件（詳細は別紙）
- ・リハビリ依頼の 89.1%が入院患者
- ・入院患者のリハビリ依頼内訳は、脳血管疾患 19%、廃用症候群 25%、運動器疾患 51%、呼吸器疾患 5%
- ・富士宮市立病院整形外科縮小の影響か運動器の比率が 10%上昇した。
- ・リハビリテーション病院への転院は 335 件、在宅は 802 件（詳細は退院先集計表参照）
- ・リハビリ依頼からリハビリ開始までの日数は 1.0 日、FIM 改善値 18.7 点であった。

### 3 来年度の課題

- ・リハビリ依頼からリハビリ開始までの日数を 1.0 日未満、FIM 改善値 20 点以上と目標を定めた。
- ・各回診への参加、学術研究、勉強会、出前講座での講師は今までどおりに行っていく。  
(文責 藤本 浩二郎)

平成26年度 リハビリ単位数

《入院》

	疾患別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法 (PT)	脳血管(I)	467	451	553	499	466	520	544	358	310	315	338	347	5,168
	脳血管(II)													
	脳血管(III)													
	(I)廃用	656	612	411	397	348	370	595	440	393	413	486	438	5,559
	(II)廃用													
	(III)廃用													
	運動器(I)	821	913	936	973	973	925	918	853	921	1,147	996	1,153	11,529
	運動器(II)													
	運動器(III)													
	呼吸器(I)	24	25	116	165	132	76	107	82	69	96	141	217	1,250
合計	1,968	2,001	2,016	2,034	1,919	1,891	2,164	1,733	1,693	1,971	1,961	2,155	23,506	
作業療法 (OT)	脳血管(I)	548	468	561	509	469	383	566	436	462	415	456	444	5,717
	脳血管(II)													
	(I)廃用	184	246	135	75	68	69	57	43	26	29	89	150	1,171
	(II)廃用													
	運動器(I)	29	58	65	126	115	144	89	109	110	90	60	79	1,074
	運動器(II)													
	呼吸器(I)													
合計	761	772	761	710	652	596	712	588	598	534	605	673	7,962	
言語療法 (ST)	脳血管(I)	250	311	347	360	277	294	389	311	313	325	331	359	3,867
	脳血管(II)													
	(I)廃用	209	294	266	295	328	252	295	195	273	273	299	314	3,293
	(II)廃用													0
合計	459	605	613	655	605	546	684	506	586	598	630	673	7,160	
早期加算	PT+OT+ST	2,345	2,350	2,348	2,271	2,323	2,338	2,547	2,101	2,026	2,242	2,443	2,616	27,950

\* 1単位は、20分

\* 早期加算はPT・OT・STの合算で、脳血管・運動器・呼吸器も合算したもの

\* 平成25年度より施設認可が変更(II→I)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
リハ計画評価(人数)	132	126	133	127	130	120	140	127	117	145	125	142	1,564
退院時指導(人数)	57	61	65	59	74	52	70	55	77	65	58	61	754
退院前訪問指導(人数)			4		1				1			1	7

\* リハビリ計画評価料は入院+外来

《外来》

	疾患別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法 (PT)	脳血管(I)	25	18	18	20	16	22	27	32	31	29	24	32	294
	脳血管(II)													0
	脳血管(III)													0
	(I)廃用	5	4	3	4	2	2	3	4	4	1	0	0	32
	(II)廃用													0
	(III)廃用													0
	運動器(I)	283	277	307	296	175	217	233	216	214	218	273	287	2,996
	運動器(II)													0
	運動器(III)													0
	呼吸器(I)								1	3	2		1	7
合計	313	299	328	320	193	241	263	253	252	250	297	320	3,329	
作業療法 (OT)	脳血管(I)	12	7	8	7	8	10	5	10	9	14	15	15	120
	脳血管(II)													0
	(I)廃用													0
	(II)廃用													0
	運動器(I)	169	165	176	175	139	147	176	157	175	233	238	232	2,182
	運動器(II)													0
	呼吸器(I)													0
合計	181	172	184	182	147	157	181	167	184	247	253	247	2,302	
言語療法 (ST)	脳血管(I)	32	44	52	40	27	27	26	28	33	35	34	28	406
	脳血管(II)													0
	(I)廃用													0
	(II)廃用													0
合計	32	44	52	40	27	27	26	28	33	35	34	28	406	
早期加算	PT+OT+ST	2	5	6	1	13	13	3	3	6	13	6	1	72

\* 1単位は、20分

\* 平成25年度より施設認可が変更(II→I)

平成26年度 リハビリ依頼 診療科月別集計表

《入院》

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	67	67	53	63	62	63	54	59	49	106	64	66	773
循環器科	5	3	7	8	2	4	7	2	7	3	6	5	59
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神神経科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	3	2	0	0	0	1	1	3	0	1	0	2	13
外科	2	4	1	7	4	7	8	7	6	7	5	10	68
整形外科	51	37	40	28	41	49	50	49	41	58	48	60	552
形成外科	0	3	2	1	1	0	4	3	5	2	1	3	25
脳神経外科	11	14	11	10	6	17	13	10	10	8	11	12	133
皮膚科	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5
泌尿器科	2	3	3	2	2	1	4	2	0	4	3	1	27
産婦人科	1	2	0	1	2	0	0	1	0	1	2	0	10
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	6
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	145	137	118	121	121	142	141	136	119	190	142	159	1,671

《外来》

科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	0	0	0	0	1	0	2	3	0	0	0	1	7
循環器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神神経科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
整形外科	20	6	15	9	11	8	11	8	9	13	14	5	129
形成外科	1	4	5	5	5	4	5	4	3	7	5	8	56
脳神経外科	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
皮膚科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	21	14	24	14	17	12	18	16	13	20	20	15	204

平成26年度 退院先集計表

区分	病院名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
リハビリ病院	富士いきいき	14	15	14	18	17	10	13	14	10	9	8	16	158
	湖山リハビリ	5	13	8	5	20	8	11	8	13	7	9	11	118
	中伊豆リハビリ	2	0	1	0	0	2	4	1	2	0	1	3	16
	中伊豆温泉	0	2	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	7
	NTT東日本伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	富士整形外科	2	2	5	1	2	4	4	2	2	2	4	3	33
	その他	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3
療養型病院	1	1	3	2	3	2	3	0	4	6	6	2	33	
その他の病院	15	16	11	7	8	8	19	10	10	11	14	17	146	
施設	12	15	11	8	5	8	13	12	9	14	18	13	138	
在宅	58	62	70	57	76	55	70	67	78	72	65	72	802	
死亡	9	9	10	10	14	5	11	4	11	17	19	8	127	
合計	118	135	137	108	146	102	149	118	140	138	144	146	1,581	



## ■ 栄養科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
主査（管理栄養士）	小俣 朋子	管理栄養士	大山 実希
管理栄養士（R）	川口 みどり		

※（R）は臨時職員

### 2 平成 26 年度の業務実績

#### （1）給食管理業務

- ・献立作成・発注・検収・材料仕込み・調理・盛り付け・配膳・下膳・食器洗浄の一連の給食業務は全面委託である。
- ・箸・スプーン及びマグカップの配膳に対し、返却数・破損状況の把握として、毎月第 2 土曜日の昼食後に数量確認・定数管理を行っている。
- ・献立会議を毎週 1 回開催し、検食時の所見を考慮した改善策を協議。また嗜好調査を年 4 回、一般食・常食喫食者を対象に実施。協議内容、調査結果を踏まえて改善策を講じ、よりよい食事提供が実践できるよう努めた。
- ・産科食は 1 日 3 食、その他一部の食種（一般食・常食、軟飯食、全粥食、高血圧食、塩分 6 g 制限食、学童食、学食）については 1 日朝・夕 2 食を毎日選択メニューで対応し、選択メニュー加算（1 食 17 円追加）を実施した。

#### （2）栄養管理業務

- ・全入院患者の栄養管理状況の把握として、栄養管理計画書の作成が必須となっているため、栄養管理計画書は毎日作成し、年間作成件数は 22,697 件となった。
- ・栄養サポートチーム加算の算定は 5 年が経過しており、当初から NST 専従職員は管理栄養士が担当している。また、NST 回診、嚥下・口腔ケア回診、褥瘡回診にも参加（回診実績は別紙参照）し、チーム医療の活動を通して多職種との連携を強め、より患者個々に応じた食事内容、栄養計画の作成、栄養評価が可能となった。
- ・NST の摂食嚥下・口腔ケアチームのメンバー（耳鼻科医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、歯科衛生士）と連携し、引き続き嚥下食の形態や新しい食材の導入を検討していく予定である。
- ・講師依頼として、緩和ケア担当委員会の勉強会「化学療法中の栄養摂取について」を 20 名に実施、出前講座は「糖尿病の食事療法」を 45 名に実施、それぞれ講師を務めた。
- ・集団栄養指導は、腎臓病教室（腎臓病と食事）は年 2 回実施。  
妊産婦対象の集団栄養指導は平成 26 年 12 月以降実施せず、特に妊娠糖尿病に対しては個別栄養指導を実施、年間 69 件実施した。

・個別栄養指導の業務実績は以下のとおりである。

表) 個別栄養指導件数の推移と指導内容の内訳

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
個別栄養指導件数	448	479	541
栄養指導内容 内訳 (件数)			
1	糖尿病及び合併症 (185)	糖尿病及び合併症 (181)	糖尿病及び合併症 (185)
2	CKD及び透析 (71)	妊娠糖尿病 (87)	妊娠糖尿病 (83)
3	妊娠糖尿病 (67)	CKD及び透析 (52)	CKD及び透析 (69)
4	消化管切除術後 (28)	嚥下食 (28)	嚥下食 (35)
5	嚥下食 (27)	消化管切除術後 (27)	消化管切除術後 (31)

\*糖尿病及び合併症にはI型糖尿病・糖尿病性腎症も含む。

\*その他として、高血圧、高度肥満・肥満症、脂質異常症、顎間固定食、肝硬変などの件数が多かった。

### (3) その他の業務

- ・実習生として富士調理技術専門学校より2名、日本短期大学部食物栄養学科より9名の受け入れを実施。
- ・市立看護学校1年生の栄養学の講師を担当。

## 3 来年度の課題

- (1) NSTを通じて他部門との連携を強化し、患者個々に応じた栄養管理の実践に努める。
- (2) 今後も経腸栄養剤や栄養補助食品等の見直し・検討も行い栄養管理に努めていく。
- (3) 栄養管理業務を実施する上で医療に関わる一員として、学会やセミナーに参加、認定専門資格の取得・維持をすることで、より専門性を高めていくとともに、人材育成としても、認定専門資格の取得を目指す。

\*認定専門資格：

NST 専門療法士・TNT-D 認定管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 (CDEJ) 病態栄養認定管理栄養士・がん病態栄養専門管理栄養士など

(文責 小俣 朋子)

## ■医療技術科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
主任（視能訓練士）	遠藤 陽子	上席視能訓練士	平岩 弘子
上席歯科衛生士	北澤 美幸	歯科衛生士	片瀬 未希
歯科衛生士（R）	長橋 あゆみ	歯科衛生士（R）	佐野 静香
准看護師（R）	谷 真裕美		

※（R）は臨時職員

### 2 平成 26 年度の業務実績

#### （1）視能訓練士

- ・外来、入院患者に対する眼科検査（表 1 参照）
- ・月、火曜日の午後、手術室にて眼科手術介助
- ・脳ドックにおける眼底撮影 37 件
- ・市民向けの出前講座 1 回

【表 1】

検 査 名	件 数	検 査 名	件 数
視力検査	10,296	視野検査	624
角膜内皮細胞数検査	528	両眼視機能検査	144
眼底三次元画像解析	3,696	ロービジョン外来	6
眼底造影検査	396	オルソケラトロジー	2
超音波検査	228		

#### （2）歯科衛生士

- ・年間口腔ケア依頼件数（入院患者） 266 件
- ・外来における障害者・有病者に対する歯科治療の診療介助 530 件
- ・全身麻酔下における障害者・有病者に対する歯科治療の診療介助 11 件
- ・外来における小手術の診療介助・器材の準備・片付 1,920 件
- ・麻酔科診察時の患者への説明、検査データ項目の確認 144 件
- ・周術期口腔衛生管理依頼件数（主として心臓血管外科手術） 19 件
- ・市民向けの出前講座 3 回
- ・院内講習会の講師 2 回
- ・富士市立看護専門学校での講師 1 名
- ・日本歯科衛生士会 認定歯科衛生士研修会への参加 1 名
- ・NST 回診への参加（嚥下チーム、栄養科チーム）

#### （3）准看護師

- ・全身麻酔下における障害者・有病者の手術患者申し送り 11 件
- ・外来における小手術の診療介助・器材の準備・片付 1,920 件
- ・麻酔科診察時の患者への説明、検査データ項目の確認 144 件
- ・口腔外科外来における点滴実施件数 120 件

### 3 来年度の課題

#### (1) 視能訓練士

- ・平成 26 年度より開始したオルソケラトロジーを軌道に乗せ拡大拡充を図る。
- ・平成 24 年度より開設したロービジョン外来の地域への周知と業務内容の充実を図る。
- ・更なる知識、技術の向上のため、認定視能訓練士資格取得を目指す。
- ・学会への積極的参加を図る。
- ・視能訓練士 1 名の増員を目指す。

#### (2) 歯科衛生士

- ・患者及びその家族の思い・考えを尊重し、真摯な対応を心がける。
- ・周術期口腔ケア対象患者の周知を診療部各科に行い、患者数・システムともに充実化を図る。術前から術後までの包括的な介助を行う。
- ・技術向上のため、各種研修会への積極的な参加。
- ・口腔外科外来における診療を円滑に進める。

#### (3) 准看護師

- ・患者との関わりを密にし、丁寧な対応を心がける。
- ・口腔外科外来における診療を円滑に進める。

(文責 遠藤 陽子)

## ■ 薬剤科

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
薬剤科長(兼)	藤本 浩二郎	副薬剤科長	落合 敏明
主任	加藤 寛史	主任	三澤 延司
主査	鈴木 正隆	主査	渡辺 浩臣
主査	大滝 哲也	主査	川口 敬
主査	望月 保子	上席薬剤師	柴田 貴子
上席薬剤師	佐藤 実香	上席薬剤師	木元 慎一郎
上席薬剤師	後藤 和美	上席薬剤師	阿部 一仁
上席薬剤師	岩本 一徳	上席薬剤師	松田 佑平
薬剤師	小林 正典	薬剤師	吉野 好美
薬剤師	村松 香奈	薬剤師	小坂 裕介
業務員	高橋 純子	業務員	大箸 悦子
業務員	渡辺 美智子	業務員	伊東 江里
業務員	望月 比呂子		

### 2 平成 26 年度の業務実績

業 務 分 類	区 分	業 務 内 容
調剤業務	外来調剤	調剤 薬剤情報提供と服薬指導 お薬手帳用ラベル提供 アレルギー副作用カードの運用（皮膚科のみ）
	入院調剤	調剤 退院時、薬剤情報とお薬手帳用ラベル提供
	注射薬調剤	注射薬個別払い出し（輸液と共に） がん化学療法のレジメン・プロトコール管理、 抗がん剤調製（休日含む）
製剤業務	一般製剤	繁用製剤の調製
	特殊製剤	市販されていない薬剤の製剤調製
試験業務		TDM（治療効果・副作用管理・処方設計支援）
医薬品情報業務	情報業務	医薬品情報収集・整理・配布・保管、緊急安全性 情報等の院内配布、薬剤管理指導業務への支援、 副作用モニタリングへの関与

薬剤管理指導業務	指導業務	入院時薬歴・相互作用チェック・持参薬の鑑別・再分包・管理・薬の説明・副作用チェック・退院時指導、医師・看護師等との打ち合わせ・カンファレンス出席
薬務業務		購入管理、在庫管理、補給管理、品質管理、麻薬管理、毒薬劇薬保管管理、薬剤委員会業務
治験管理業務		治験薬の登録・調剤・管理
その他	医薬品安全管理	院内ラウンド、リスクマネージメント他
	研修活動	院内・院外研修、学術発表他
	教育活動	腎臓病教室、市内小・中・高校の職場体験
	院内活動	各種委員会への参画

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
薬剤管理指導件数	2,633	4,751	6,483
持参薬鑑別件数	468	4,818	6,851
個別注射薬払い出し件数	244,417	270,980	275,952
再分包件数	0	1,302	1,992
TDM	431	433	394
保険薬局からの疑義紹介件数	0	3,305	4,082

平成 26 年度に開始された業務

- (1) 外来の麻薬処方に関する患者説明（初回時、投与量変更時）
- (2) アレルギー副作用カードの運用（皮膚科のみ）
- (3) 薬剤師の病棟業務に関するアンケートを行い問題点の把握を行った
- (4) 病棟担当薬剤師が長期休暇を取った場合、切れ目ない病棟業務の実施
- (5) 医療補助員による注射薬品の取り揃え（薬品取り揃え表による）

### 3 来年度の課題

- (1) TPN 無菌調製
- (2) 病棟業務の充実
- (3) 副作用の一元管理

（文責 落合 敏明）

## ■看護部長室

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
副院長兼看護部長 (日本看護協会認定看護管理者)	遠藤 さよ子	副看護部長(総務担当)	伊藤 すみ子
		副看護部長(教育担当)	藤澤 睦子
		医療補助員	白井 美登里

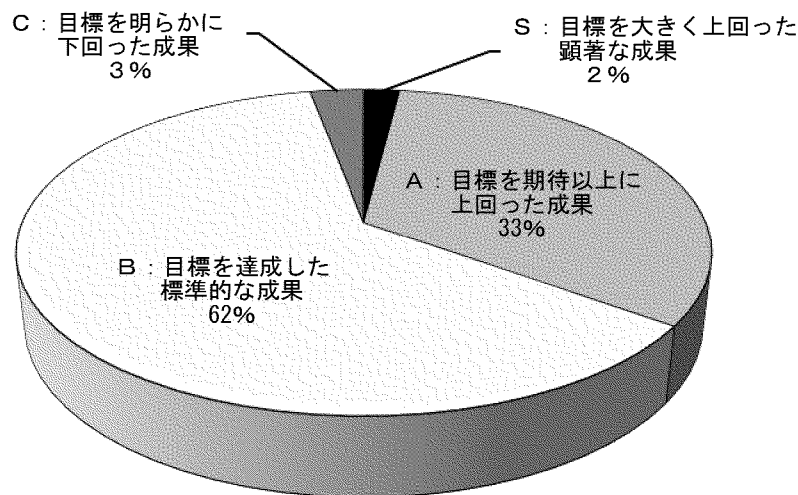
### 2 所属の特色

看護部長室には、副院長兼看護部長と2名の副看護部長、事務を担当している医療補助員の計4名が在籍しており、スムーズな看護部組織運営のため、副看護部長は総務担当と教育担当に業務を分担している。今年度は新体制となり、さらに必要な情報を的確かつ迅速に看護長へ伝達するとともに看護長からの看護部への報告も徹底され問題解決に向け対応している。

### 3 平成26年度の目標及び評価

目標「個々の人権を尊重した、信頼される看護を提供する」

達成度評価：



### 行動目標

#### 1 一人ひとりの接遇力が向上する

- ・事例検討を行い倫理綱領の勉強会を行った
- ・倫理の事例検討を身近な問題として捉え、患者目線に立ち考えられるようになった
- ・患者サービス向上担当委員を中心とした事例検討、寄せられた意見、提案をカンファレンスで共有し、スタッフ個々のアセスメント能力が向上した
- ・手術前後の患者家族への言葉かけを行い配慮ある対応ができた

- ・倫理綱領に沿った標語作成と事例検討が行われた
- ・明るく元気な挨拶を実践できた
- ・3コール以内の電話対応が前期より実践された
- ・挨拶の重要性について勉強会の実施をした
- ・身だしなみについて意識づけでき、お互い注意し合う環境ができた
- ・接遇評価を継続し、結果の可視化につながった
- ・対応に苦慮した事例検討を通して情報共有した

## 2 患者さん個々の生活環境、思いに寄り添った看護実践を行う

- ・患者家族の意見をカンファレンスで共有した
- ・患者参加型カンファレンスの基準の見直しを行った
- ・患者家族の疑問、不安などの意見を、看護や医師からの説明に活かしている
- ・デスカンファレンスで、スタッフから多くの意見が交わされ看護に繋がった
- ・医療チームでのカンファレンスが定例化した
- ・医師の説明時に同席して退院調整を進め在院日数の短縮につなげた
- ・患者の希望を取り入れた看護実践を行えるように看護計画をベットサイドに提示した
- ・指導は個室で説明しプライバシーに配慮した
- ・ベットサイドの環境整備ができた（口腔ケア物品・おむつ補充の徹底）
- ・倫理カンファレンス、デスカンファレンスを開催し、患者が満足できた事例の振り返りができた

## 4 業務実績

	で き ご と
4月	昇任：副院長兼看護部長 副看護部長2名（総務担当・医療安全）、看護長2名 参事3名、副看護長4名、主任4名、主査13名 ・共立蒲原総合病院地域連携医療支援室に看護長1名出向 ・SDS（うつ状況自己測定）について看護長、参事兼副看護長、副看護長、主任による合同研修
5月	・臨時看護職員研修（組織を理解し、自己の役割を知る）を行う ・第2次採用試験2名採用（6月より） ・DMAT2チーム編成（柿畑・大野）となる



6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療補助員を5名体制（3B・6A）、4名体制（3C・7A）とする（3B・3C・6A新規採用医療補助退職）</li> <li>・新採用者2名辞令交付</li> <li>・市の看護師実務研修への協力（6月～1月）</li> <li>・国家公務員初任行政研修3名（7A・救急外来）</li> <li>・共立蒲原総合病院退院支援ナース退院支援実習（7名）</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度採用試験（1次募集）</li> <li>・新生児特定集中治療室（NICU）管理料2 加算算定開始</li> <li>・日本看護協会「認定看護管理者」取得（遠藤さよ子・田中稔） 「集中ケア認定看護師」取得（佐野世佳）</li> <li>・雙葉中学病院見学6名</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業着の防寒用としてインナーTシャツ着用許可とする。</li> <li>・院内学術集会で地域連携室最優秀賞</li> <li>・高校生1日体験ナース40名</li> <li>・医薬学生病院見学14名（4A・4B・6A・6B・7A・7B）</li> <li>・幼稚園教諭研修1名（各外来・4A・4B）</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度採用試験（2次募集）</li> <li>・4A病棟にパート看護師配置（7時間勤務）</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本看護協会認定看護師進学に関する選定事項（管理者用）検討決定</li> <li>・合同会議 臨時・パート看護師の病棟配置について情報の共有</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉原北中学職場体験6名</li> <li>・田子浦中学職場体験6名</li> <li>・エボラウイルス疾患対策研修（ICT 増田）</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度採用試験（3次募集）</li> <li>・岳陽中学校職場体験2名</li> <li>・DMAT チーム出動要請手順作成</li> <li>・がんセンターCN 実習受け入れ（1名）12月11日～1月31日</li> <li>・年末年始に病棟医療補助員が勤務</li> </ul>

1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5 A病棟にインフルエンザ患者コホート部屋6床設置</li> <li>・名古屋学芸大養護教諭実習受け入れ1名（1月26日～2月13日）</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度採用試験（4次募集）応募者なし</li> <li>・富士南中学職場体験5名</li> </ul>

\*富士市職員自主研究グループ活動として、8グループが活動参加した。

\*研修報告会を毎月第3火曜日（12時45分～13時）に実施し、23名が研修報告した。

\*認定看護師取得に向け静岡県立がんセンターの受験を推進した。

\*日本看護協会認定看護師

平成18年	村松由貴子	がん化学療法
平成19年	望月久子	手術看護
平成22年	若林久美子	皮膚・排泄ケア
平成23年	高井みさ子	認定看護管理者
平成24年	村松和歩	訪問看護
	加藤美奈子	慢性呼吸器疾患看護
平成25年	本間功武	感染管理
平成26年	遠藤さよ子	認定看護管理者
	田中稔	認定看護管理者
	佐野世佳	集中ケア

\*院内認定看護師

平成25年	赤堀 崇代	退院調整
-------	-------	------

## 5 平成27年度の目標

「看護の専門性を高め、患者・家族の思いを大切にした看護を提供する」

行動目標：1. 知識・技術を深め、責任ある看護を実践する

2. 丁寧な対応と言葉かけを行い、患者・家族に寄り添った看護を実践する

（文責 遠藤 さよ子）

## ■外来

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	北島 美鈴	参事兼副看護長	小松崎 敏子
参事兼副看護長	西家 裕子	参事兼副看護長	田中 慶子
参事兼副看護長	後藤 光子	副看護長	佐野 まり子
副看護長	田島 眞弓	副看護長	鈴木 早苗
副看護長	齋藤 洋実	主任	増田 満伯
主任	村松 由貴子	主任	佐野 みどり
主任	杉本 祐介	主査	9名
看護師	73名	准看護師	4名
医療補助員	46名	業務員	2名

### 2 所属の特色

当院の外来は 22 科の一般外来と、内視鏡・放射線科・救急外来で形成されている。内視鏡、放射線科は、予定の検査・治療と緊急時に対応できる看護体制となっている。放射線科では血管撮影室の機材が入れ替わり、脳血管内治療 17 件、心臓カテーテル検査・治療 1,129 件を行った。

救急外来では、地域の二次、三次救急を支えるため、当直の内科、外科、小児科、循環器内科各々の医師と、三交代の看護師で 24 時間体制の受け入れを行っている。

4 月より東京慈恵会医科大学附属病院から精神神経科医師が毎週金曜日派遣され、院内の依頼患者を対象に診療を開始した。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標：患者・家族に心をこめた対応と、安心で安全な看護を提供する

評価：1) 看護師の倫理綱領の読み合わせを行い、責任ある看護実践に繋げた。

接遇研修に参加し、患者・家族が安心して受診できるよう心がけた

2) 外来全体会で泌尿器科外来の専門的診察・処置についてパワーポイントを用いて説明した。各チームで勉強会を実施した

### 4 業務実績

- ・重症度、医療・看護必要度、看護記録の勉強会を実施した。
- ・褥瘡対策委員による、外来褥瘡対策委員会だよりを 8 回発刊した。
- ・救急外来と放射線科で、看護水準の向上・外来看護の充実を図る目的で自主研究に取り組んだ。

### 5 平成 27 年度の目標

外来各科の専門性を高め、患者・家族に安心で安全な看護を提供する

1) 知識・技術を深め、患者・家族に寄り添った外来看護を実践する

2) あいさつ、笑顔、身だしなみに配慮し、思いやりのある対応を心がける

(文責 北島 美鈴)

## ■在宅療養支援グループ

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	齋藤 幸子	主査	赤堀 崇代
副看護長	佐藤 美智子	上席看護師	野畑 圭子
主任	村松 和歩		

### 2 所属の特色

在宅療養支援グループでは、総合相談センターと退院調整・訪問看護を担当している。総合相談センターでは、患者・家族が安心して療養生活（外来・入院を問わず）を過ごせるように、不安や疑問に対して看護師の専門性を活かし相談に応じている。退院調整・訪問看護においては、訪問看護認定看護師を中心に退院支援および訪問看護サービスを行っており、「より身近に、よりの確に、より優しい看護を提供します」を理念に在宅療養移行支援を実践している。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標：「患者・家族の思いに寄り添い、満足と安心の得られる看護を提供する」

- 1) 相談・苦情に傾聴し、納得のいく看護を提供する
- 2) 院内ケアチームと在宅ケアチームと連携し、訪問看護患者や家族に寄り添い、患者ニーズに即した根拠ある丁寧な看護実践をする
- 3) 地域関係機関と連携し、患者・家族のニーズに沿った療養環境移行支援が実践できる

評価：1) 常に傾聴に心がけ、適切な声掛けと迅速な対応であらゆる相談に応じた  
2) 訪問後看護リフレクションを実施し、困難事例を中心に症例カンファレンスを行い、患者ニーズに即した訪問看護の実践に活かすことができた  
3) MSW と協働して退院支援システムの改善を図り、地域関係機関とも連携してよりよい在宅移行支援の実践に繋げることができた

### 4 業務実績

- 1) 毎週 1 回総合相談カンファレンスと病棟巡回を実施した
- 2) 訪問患者実施数 69 名、延べ訪問回数 1,185 回であった
- 3) 退院支援システムに沿った各部署毎週 1 回の定期的な退院調整カンファレンスと毎月 1 回の退院支援カンファレンスを実施した

### 5 平成 27 年度の目標

目標：「多職種との連携を強化し、質の高い患者・家族の望む療養に繋げる」

- 1) 優しい対応と適切な説明で、あらゆる相談に応じる
- 2) 患者・家族の思いを汲み取り、満足のいく意思決定支援を実践する
- 3) エビデンスに基づいたきめ細やかな訪問看護を実践する

(文責 齋藤 幸子)

## ■手術室

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	今野 美枝子	副看護長	加藤 美奈子
主任	望月 久子	主任	石川 裕子
主査	6名	看護師	17名
委託(ダスキン)	4名		

### 2 所属の特色

当院手術室は、12科の手術を、看護師27名(認定看護師1名含む)で、年間3,700件の手術を行っている。増加する鏡視下手術や、昼夜問わない緊急手術に対して安全な手術看護を提供している。

### 3 平成26年度の目標及び評価

目標：手術患者の個別性を捉えた、安心・安全なチーム医療を提供する

- 1) 術前情報にアセスメント用紙を活用し、個々に応じた看護を実践する
- 2) 術前カンファレンスを行い、個々の手術に対する準備を確実にを行う

評価：1) アセスメント用紙を活用し情報分析を行った。術前カンファレンスで意見交換を行い、個々のアセスメント能力を高めることができた

- 2) 麻酔・手術申込票の改善を行い、術式に合わせた器械・物品を明確にしたことで手術準備の効率化を図ることができた

- 3) 定期的に勉強会や机上シミュレーションを行うことで、緊急性・危険度の高い手術に関する知識・技術を共有することができた

### 4 業務実績

- 1) 心臓外科手術再開に向けての準備を行ない、手術再開に対応した
- 2) 体位・麻酔・疾患別のアセスメント基準を作成した
- 3) 特殊カンファレンスの申し込み時は計画的に活動し、当院で初めて行う手術・危険性の高い手術に対応した

### 5 平成27年度の目標

手術看護の専門性を高め、患者に寄り添う看護を提供する

- 1) 術前アセスメント力の向上を図り、患者個々に合った看護を提供する
- 2) 質の高い看護が提供できるよう自己研鑽に努める

(文責 小林 由美)

## ■中央材料室

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長 (OP室・中材兼任)	今野 美枝子	副看護長	山本 栄理子
委託 (ダスキンマネジャー)	山岡 隆志	委託 (ダスキン)	9名

### 2 所属の特色

中央材料室は、患者に安全な滅菌医材を提供する為に、委託業者と協力し、院内で使用する医材の滅菌業務（オートクレーブ・EOG・プラズマ）と病棟の検体や医材、伝票類、薬剤等の搬送業務を行っている。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標 患者に安全な滅菌医材を提供する

- 1) 滅菌医材の管理と質保証を維持する
- 2) 災害に備え防災対策を見直す

評価 1) 8月より洗浄評価を月1回実施、定例化した。滅菌保証の質向上の為にPCDの導入段階として各社製品を取り寄せ情報収集を行った。

不良医材の削減や修理・新品の購入に力を入れメンテナンスを行った。消毒セット類を8種から4種に削減、使い易い物に変更し業務の効率を上げた。年2回の巡回時に各部署の定数や保管環境を点検、安全な滅菌物の管理に努めた。中材の質向上の為に、KYT・接遇・中材業務・感染・リスク等の勉強会を月1回定期的に行った

- 2) 防災備蓄品の日切れ対策として一部のベースンの包装を四角布からクルムに変更、日切れなく防災にも活用出来るようにした。防災訓練の為に仮アクションカードの作成、防毒マスクとゴーグルの追加設置、防災用品の準備を行った

### 4 業務実績

- 1) 超音波洗浄機の性能試験・洗浄評価を月1回定例化した
- 2) 防災対策用アクションカードの作成と簡易机上シミュレーションを実施した
- 3) 4Aベースンの日切れ対策として包装を四角布からクルムに変更、防災時にも兼用出来るようにした
- 4) 消毒関係のセットを8種類から4種類に減らし業務の効率化を図った

### 5 平成 27 年度の目標

- 1) 滅菌・消毒医材管理と業務の効率化を図る
- 2) 災害に備え防災対策を整える

(文責 小林 由美)

## ■ ICU（集中治療室）

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	植松 和子	副看護長	白戸 幸子
主任	渡邊 かおる	主任	芳野 由規子
看護師	15 名	医療補助員	1 名

### 2 所属の特色

ICU は看護長以下 19 名の看護師と 1 名の医療補助員で構成されている。看護配置は 2 対 1 で、看護提供方式はモジュール方式である。4 床稼働で、平成 26 年度の延患者数は 1,052 名、病床稼働率は 89% で年々増加傾向である。入室患者を科別にみると、循環器内科（心臓外科を含む）103 名、外科 89 名、脳神経外科 62 名、内科 14 名、産婦人科 7 名、泌尿器科と整形外科がそれぞれ 2 名、耳鼻咽喉科 1 名であった。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標 集中治療の中で、個々を尊重した安全で安心できる看護を提供できる

- 評価 1) 医師・薬剤師・臨床工学技士・理学療法士を交え定期的にカンファレンスを行い患者・家族の思いを共有し看護に活かすことができた  
2) シミュレーションを通しての勉強会を行い実践で活かすことができた  
3) アセスメント能力を高められる勉強会を実施し、看護の専門性を高めることができた

### 4 業務実績

- 1) 医師・薬剤師・臨床工学技士・理学療法士を交えたカンファレンスを 18 回行った
- 2) 退室後訪問において、患者・家族から「わかりやすく説明をしてもらった」、「十分配慮してもらった」という声をいただいた
- 3) シミュレーションを含めた勉強会を 17 回実施した
- 4) ICU 業務マニュアル・処置手順を見直し全員に浸透した
- 5) 看護研究教室に参加し研究に取り組み、日本看護学会で発表し論文が採択された
- 6) 防災マニュアルに基づき異動者を中心に、夜間想定で初動シミュレーションを 3 回実施した

### 5 平成 27 年度の目標

集中治療において患者・家族の思いに添った根拠ある看護を提供する  
<行動目標>

- 1) 高度医療に対応できる知識・技術を深める
- 2) 患者・家族の情報を共有し、その思いに添った看護を実践する
- 3) ICU 防災マニュアルに基づいたシミュレーションを実施する

（文責 植松 和子）

## ■ 3 B 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	勝山 弘子	副看護長	秋山 ゆかり
主任	村田 弘子	主任	小林 二十美
主査	4 名	看護師	21 名
医療補助員	5 名		

### 2 所属の特色

3 B 病棟は、脳神経外科・泌尿器科・整形外科 51 床と、感染病床 6 床を併設している。病気や障害と共に生きる患者・家族の気持ちに寄り添い、丁寧でやさしい対応、安全で確実な看護に努めている。また、医師・コメディカルと連携して、自立支援および退院調整を早期から進めている。お互いに助け合う職場環境が整っており、働きやすい職場である。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標「患者・家族を尊重した信頼される医療を提供する」

#### 1) スタッフ一人ひとりの倫理的感性を高める

入院時から、患者・家族の希望や入院前の生活状況に関する情報を積極的に聴取し、カルテに記載した。それらの情報を共有し、受持ち看護師が中心となって看護計画の評価・修正を行い、患者個々を尊重した看護の実践に繋がった。

また、倫理カンファレンス 12 例やデスカンファレンス 3 例を多職種とも行い、患者にとって良いことは何か様々な立場から振り返ることができた。

#### 2) 病棟の特殊性を理解し、安全な看護実践を行う

病棟における安全ベルト基準・内服薬管理基準を見直し改訂した。薬剤・製剤のリスクは 20%減に繋がった。地震に備え、初動シミュレーション訓練を実施した。

#### 3) 脳神経外科・泌尿器科・整形外科の専門性を高める

膀胱癌、移乗介助法、吸引・カフ圧測定、地域連携パスなど各科に関する勉強会を年 7 回行った。各科の基準および新人チェックリストを見直し改訂した。

### 4 業務実績

業務改善：①申し送り廃止、②安静度・清潔ケア・排泄回数表作成、③手・足シャボンラッピング各 40 人/月実施、④褥瘡フローチャート作成・ズレ防止対策実施  
ケーススタディ：①失語症患者のせん妄改善、②嚥下障害・半側空間無視の改善、③抗癌剤副作用日記による苦痛の表出、④歩行困難となった癌終末期の自宅退院調整

### 5 平成 27 年度の目標

「医療者それぞれの専門性を発揮して、患者・家族の希望に沿った医療を提供する」

#### 1) 患者・家族の希望を取り入れてカンファレンスを充実させる

#### 2) 患者個々の生活自立に向けた支援を行う (文責 今野 美枝子)



## ■ 4 A 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	水野 博代	副看護長	小野田 智恵子
主任	大井 洋子	主任	笹木 一美
主査（看護師）	4名	主査（助産師）	6名
看護師	4名	助産師	7名
准看護師	1名	看護師（臨時）	1名
医療補助員	3名		

### 2 所属の特色

4 A病棟は、産科病棟であり、妊娠・分娩・産褥の患者さんが入院している。ベッド数は 32 床であり、その他陣痛室・分娩室・新生児室がある。スタッフは、患者一人ひとりを大切にしたい優しい看護の提供に努めている。

妊婦自身が、妊娠期間を快適に過ごせ主体的に分娩に臨めるよう「ファミリークラス」を毎月開催している。また、「助産ケアルーム」では、妊婦の心配事や相談に随時対応している。分娩時は、産婦のバースプランに基づき、ニーズに沿ったお産となるよう努めている。産後は、バースレビューやクリニカルパスに沿って褥婦の育児支援を行い、必要時は、フィランセや子育て支援課等との連携を図り、退院後も継続して母子支援を行っている。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標「患者さん一人ひとりの身になった誠実な医療を提供する」

- 1) 患者さんを尊重した丁寧な言葉使い・態度に心がける
- 2) 患者さんの訴えに傾聴した医療の提供を行う

評価

- 1) 患者の訴えや思いを傾聴し、個別性をとらえた看護実践ができた
- 2) 受け持ち看護師は、バースプラン・バースレビューを基に看護ケアの振り返りができた

### 4 業務実績

- 1) 地域連携を強化するために、フィランセ保健師との連絡会を 2 回実施した
- 2) 周産期カンファレンスを 3～4 回／月行い、小児科医師・産科医師・小児科看護師と共に患者の情報を共有し、安心・安全な医療に提供に繋げた
- 3) 日本看護学会（ヘルスプロモーション）で看護研究発表を行った

### 5 平成 27 年度の目標

知識・技術の専門性を追求し、思いやりのある医療を提供する

（文責 水野 博代）

## ■ 4 B 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	高橋 ハマ子	副看護長	東川 真理
主任	渡辺 明子	主任	羽二生 朱美
主査	8名	看護師	31名
医療補助員	3名		

### 2 所属の特色

4 B 病棟は、新生児から 15 歳までの小児が入院している。小児科をはじめ、耳鼻咽喉科・外科・脳外科・整形外科・形成外科などあらゆる科の小児が入院する。

ベッド数は、NICU（新生児特定集中治療室）10 床を含む 44 床である。NICU は、富士医療圏のハイリスク新生児を受け入れ、高度医療・看護を提供している。

病棟理念は「一人ひとりに丁寧な対応を心がけ、コミュニケーションを大切にしたい医療・看護を提供する」であり、患児・家族が安心して入院できる環境を整えている。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標：専門職としての知識・技術を高める

一人ひとりを大切にしたい丁寧な対応をする

評価：急変時の対応を習得するために、医師と看護師が合同で急変対応シミュレーションを週 1 回実施した。

医師とケースカンファレンスを週 1 回行い、患児の病態や治療方針など情報を共有し患者問題について検討し、看護の統一を図ることができた。

### 4 業務実績

平成 26 年度は、主に患児の急変時の対応に取り組んだ。毎週 1～2 回、急変対応シミュレーションを医師とともに実施し、知識・技術の向上に努めた。

患児・家族に記入をお願いしている「御意見用紙」を修正し、さらに多くの意見をいただけるようにした。家族からの意見・希望に対しては、スタッフ一同迅速に対応したことにより、家族から良い評価をいただくこともあり、看護サービスの質の向上を図ることができた。

### 5 平成 27 年度の目標

- ・自己啓発と継続学習に努め、根拠ある看護を実践する
- ・一人ひとりを大切にしたい丁寧な対応をする

(文責 高橋 ハマ子)

## ■ 5 A 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	勝又 千壽子	副看護長	中村 三千代
主任	加藤 珠永	主任	勝又 祐子
主査	5名	看護師	20名
医療補助員	4名		

### 2 所属の特色

当病棟は耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・婦人科・外科・内科の5科からなる混合病棟であり、在院日数は数日から数ヶ月と幅がある。看護体制は3チームに分かれ、固定チームナーシングで受け持ち制をとっており、患者一人ひとりを尊重し寄り添った看護を提供するために患者参加型カンファレンスを行なっている。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

#### 1) 接遇に対する意識の向上を図り、安心できる医療サービスを提供する

事例検討会（6回／年）を実施し看護の振り返りを行うことができた。患者からの提案事項はカンファレンスで共有した。患者・家族へのアンケートで接遇マナーは良好という評価であった。

#### 2) 知識・技術を深め、質の高い信頼される医療を提供する

5科の各科ファイルの見直しを行い、統一した看護の提供と専門的知識の向上に努めた。また、参加した研修の伝達講習や認定看護師に依頼して勉強会を行った。

#### 3) カンファレンスの充実を図り、個々を尊重した療養環境を整える

患者・家族参加型カンファレンス、退院調整カンファレンスなどを主体的に取り組んだ。

### 4 業務実績

#### 1) 患者参加型カンファレンス： 294 件／年

#### 2) 事例検討会：看護観 6 件／年・デスカンファレンス 2 件／年

#### 3) 研修参加伝達講習：32 件／年

#### 4) 業務成果発表：清潔ケアの充実を目指して1年後の評価を実施した

### 5 平成 27 年度の目標

各科の専門性を高め、信頼ある医療を提供する

行動目標

#### 1) 各科ファイルの見直しを継続し、知識・技術の最新情報を共有する

#### 2) チーム医療に積極的に取り組む

#### 3) 接遇力を向上させる

(文責 勝又 千壽子)

## ■ 5 B 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	森本 康江	副看護長	渡邊 裕子
主任	藤田 久美子	主任	遠藤 喜巳子
主査	7名	看護師	18名
医療補助員	4名		

### 2 所属の特色

5 B 病棟は、56 床の外科病棟であり、消化器疾患の検査、手術目的や乳房の手術目的、化学療法治療、緩和目的のための患者が入院している。手術という非日常的な体験をする患者に御本人・家族の思いを大切にされた医療と看護を提供している。特に緊急手術で入院する御本人・家族に対しては、安全で安心した対応を心掛け、鏡視下手術患者を中心にクリニカルパスの導入により入院期間の短縮を目指して取り組んでいる。また、緩和医療と看護の充実を図るため病棟薬剤師と連携して患者一人ひとりの思いを尊重し、寄り添った看護を提供して看護の質の向上に努力している。

### 3 平成 26 年度の病棟目標及び評価

目 標：みる（診る 看る）ふれる 考える医療と看護サービスを提供する

行動目標：心をこめた挨拶と対応によりサービスの向上を図る

他職種との連携で患者・家族が納得する医療を提供する

評 価：挨拶および対応は、医療者間、患者、家族に対して心をこめて行い、患者、家族からのお礼状を 13 件／年いただいた。

カンファレンスを定期的実施する事で情報の共有に努め、患者・家族のニーズにあった看護を提供することができた。

### 4 業務実績

1) 病棟勉強会 ドレーン管理、EST、ERBD、胃切オペ後の管理、スキンケア、がん化学療法看護認定看護師からの勉強会（2回／月）

感染対策

急変時の対応 救急蘇生のシミュレーション

病棟カンファレンスにおける事例共有

2) 伝達講習会 看護部研修受講後の伝達

3) 事例検討会：緩和事例検討（週 3 回）

4) 退院調整カンファレンス：毎週火曜日

### 5 平成 27 年度の目標

目 標：安全で安心な医療、看護の提供をする

行動目標：1) 専門的知識に基づいた医療、看護を提供する

2) コミュニケーション力を高め、医療者、患者、家族と情報交換してチーム医療を実践する  
(文責 森本 康江)

## ■ 6 A 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	大塚 君子	副看護長	遠藤 里花
主任	金森 清美	主任	田中 圭子
主査	7名	看護師	18名
医療補助員	5名		

### 2 所属の特色

6 A病棟は、ベッド数 50 床の内科病棟で、主に、血液疾患・代謝系疾患の方が入院している病棟である。血液疾患治療の為、無菌室 3 床が設置されており、化学療法とその看護に対応している。糖尿病患者に対しては、糖尿病療養士と共に教育プログラムに則り正しい知識の習得と自己管理をサポートしている。今年度は、「患者・家族を尊重し、心のこもった看護を提供する」を目標に、患者・家族の思いに寄り添い、6 A病棟に入院して良かったと思われる看護を目指している。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標「患者・家族を尊重し、心のこもった看護を提供する」

行動目標

- 1) 真心こめた対応と、明るい笑顔を心がける
- 2) 医療チームと協働し、個々に合った看護実践を行う

評価

- 1) 倫理に関わる事例検討は定期的に行なうことができた。患者・家族からも感謝の言葉が聞かれ、看護サービスに活かすことができた
- 2) チーム医療が意識づけられ、個々に沿った看護実践に結び付けることができた

### 4 業務実績

病棟勉強会：糖尿病 WEB 勉強会 2 回開催・糖尿病の基礎（講師 蝶野 Dr）・糖尿病と高血圧・脂質異常（講師 竹田 Dr）・インスリンの基礎知識（講師 木元薬剤師）・リラクゼーションのすすめ（講師 大塚心理相談員）・悪性リンパ腫の分類と治療（講師 石井 Dr）

業務成果発表：深夜から日勤への申し送りを廃止後 1 年が経過しての評価

### 5 平成 27 年度の目標

目標「患者・家族の思いを尊重し、専門的知識に基づく質の高い看護を提供する」

行動目標

- 1) 患者一人ひとりの思いを大切にし、真心を込めた対応をする
- 2) 知識・技術の向上に努め安全・安楽な看護を実践する

（文責 大塚 君子）

## ■ 6 B 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	花崎 久美子	副看護長	齋藤 正美
主任	白井 さつき	主任	松井 美香
主任	山中 祐子	主査	5名
看護師	24名	医療補助員	5名

### 2 所属の特色

6 B 病棟は、呼吸器内科・腎内科の 54 床の病棟と透析室 10 床を兼務している。誤嚥性肺炎・肺腫瘍・慢性呼吸器疾患・慢性腎臓病などの患者さんが入院しており、人工呼吸器管理など高度な知識・技術が求められ日々看護の向上に努めている。

在宅酸素導入や、血液透析導入・腹膜透析導入に対し、わかりやすくプログラムを用い個別指導を行っている。入院中・退院後の不安を軽減するよう心がけている。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標「丁寧な対応で一人ひとりを大切にした医療・看護を提供する」

行動目標

- 1) 倫理感性を高める
- 2) 患者・家族の思いに寄り添った看護実践を行う

評価

- 1) 倫理カンファレンス、デスカンファレンスを実施し、看護の振り返りを行うことで、倫理的視点を共有することができた
- 2) 患者の希望を取り入れた看護計画を立て、統一した看護の提供ができた。また、医師・看護師・他職種とのカンファレンスを行い、退院調整をすることで、在院日数の短縮を図った

### 4 業務実績

- 1) 病棟勉強会：腎臓病・腹膜透析・血液透析・地震想定と初動について HOT, NPPV 療法・口腔ケア講習会・看護倫理について行った。
- 2) 事例検討：倫理カンファレンス 4 回／年・デスカンファレンス 4 回／年 医師やコメディカルと共に患者・家族への関わりや心理的な変化など事例を通し看護を深めることができた。
- 3) 業務成果発表：「看護ケアの充実を目指してナースカンファレンスの定着を図る」をテーマとして、計画的に実践することができた

### 5 平成 27 年度の目標

目標「専門性を発揮し、患者・家族を尊重した看護を提供する」

行動目標

- 1) 知識・技術・態度の向上に努め、責任ある看護を実践する
- 2) 患者・家族の思いに寄り添った看護を実践する

(文責 花崎 久美子)

## ■ 7 A 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	小林 由美	副看護長	松山 早登美
主任	齋藤 カトミ	主任	西崎 金苗
主査	4名	看護師	21名
医療補助員	4名		

### 2 所属の特色

7 A病棟は、循環器内科・心臓血管外科 42 床、結核病棟 10 床の病棟である。入院患者の多数は、心臓カテーテル検査・治療を目的として入院されており、安心して検査・治療が受けられるよう、クリティカルパスを使用し看護を行っている。また、心筋梗塞などの循環器疾病は突然発症し、緊急入院される患者も多い。24 時間心電図を観察することで患者の状態を把握し、急変時に早期対応が行えるようにしている。勉強会の実施にて、専門知識を深め看護の質の向上を目指している。

### 3 26 年度の目標及び評価

「循環器病棟の専門性を発揮し、患者に信頼される医療サービスを提供する」

#### 1) 個々の患者の人権を尊重した医療サービスを提供する

他職種と連携した患者カンファレンスを実施し、退院調整・患者支援を行った。

#### 2) 循環器病棟の専門性を発揮し、質の高い医療を提供する

毎月の勉強会を実施することで専門性を高め、得た知識を看護の質向上に繋げた。

#### 3) 接遇力を向上させて、快適な入院生活に繋げる

担当看護師の表示と挨拶を徹底し、患者・家族が話しやすい環境作りを行った。

#### 4) 新人育成を全員で行う職場風土を作る

新人育成プランに沿って教育を実施し、スタッフ全員で関わることができた。

### 4 業務実績

循環器疾患、心臓外科手術・術後管理、循環器で使用する薬剤、災害トリアージなどの勉強会を月 1 回開催し、参加率が 70%を超えることが出来た。業務改善では、利便性だけでなく感染防止を考慮した電子カルテワゴンの使用方法を再検討した。多数使用する輸液などのコード類を整理するコンセントホルダーを作成し活用した。

### 5 平成 27 年度の目標

「循環器・結核病棟の専門性を深め患者・家族に信頼される医療を提供する」

#### 1) 病棟の特殊性を理解し、責任ある看護を提供する

#### 2) 接遇力を向上させて快適な入院生活に繋げる

#### 3) 新人教育をスタッフ全員でおこなう職場風土を作る (文責 勝山 弘子)

## ■ 7 B 病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	高井 みさ子 (※)	副看護長	柘植 範子
主任	滝澤 佐織	主任	戸塚 美晴
主査	4 名	看護師	22 名
医療補助	4 名		

(※) は日本看護協会認定看護管理者

### 2 所属の特色

7 B 病棟は消化器内科病棟でベッド数は 55 床、主に肝臓や胆道系の疾患、胃・腸・膵臓などの消化器疾患の患者が入院する。病棟には検査室があり肝生検、ラジオ波 (RFA) やエタノール注入法 (PEIT) を消化器内科医師が実施し、病棟看護師が介助についている。また、入院患者の緊急内視鏡の介助も実施している。今年度は肝生検 43 件、RFA48 件、PEIT 1 件、緊急内視鏡 33 件を実施した。看護体制は固定チームナーシングで、患者の気持ちに寄り添い、きめ細かな対応で最善の看護を提供するために医師と共に医療・看護に努めている。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標「一人ひとりを大切にした質の高い医療を提供する」

行動目標

- 1) 明るい笑顔と丁寧な対応を実践する
- 2) 専門性を発揮し、医療チームと協働する

評価

- 1) 患者・家族に丁寧な看護をするため倫理勉強会を実施したことで個々の接客意識が高まった
- 2) 医療チームと協働し積極的にカンファレンスを実施した。病棟勉強会を医師等も参加して実施したことで知識・技術の向上につながった

### 4 業務実績

- 1) 病棟勉強会：緊急内視鏡研修を含め 13 回実施
- 2) 業務改善：清潔ケアの充実と緊急内視鏡教育プログラムの改訂を実施

### 5 平成 27 年度の目標

病棟目標 消化器内科の知識・技術を磨き、患者・家族の思いに寄り添い信頼される看護を提供する

行動目標 1) 消化器内科の知識・技術の向上を目指し自己啓発に努める  
2) 心をこめた挨拶と思いやりを持ち、患者・家族の希望に添った看護を実践する

(文責 高井 みさ子)



## ■ 3 C病棟

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
看護長	大石 悦子	副看護長	野澤 里美
主任	鈴木 裕子	主任	小澤 花子
主査	6名	看護師	19名
医療補助員	4名		

### 2 所属の特色

3 C病棟は、整形外科・形成外科・眼科・皮膚科の混合病棟である。高齢化に伴い、大腿骨頸部骨折や白内障の患者さんが多く入院している。ほぼ全員の患者さんにクリニカルパスを使用し、診療、看護及び自立への援助などを計画的に行っている。移動に介助を必要としている患者さんが約 90%を占めているため、転倒・転落などリスク対策に力を入れ、安全な入院生活が送れるように努めている。また、大腿骨地域連携パスを使用して地域と連携し、スムーズな転院を目指している。

### 3 平成 26 年度の目標及び評価

目標「思いやりの心、安全、安心な医療の提供をする」

#### 1) 笑顔とあいさつ、個々の患者に丁寧に向き合う

接遇 DVD を使用した勉強会を実施した。接遇アンケートを年間 2 回実施して日頃の対応を振り返った。

#### 2) 患者・家族が納得のいく、療養環境・療養支援を行う

患者参加型看護の基準を見直し、スタッフ全員が共通認識をして患者参加型カンファレンス、ウォーキングカンファレンス、退院支援に臨んだ。クリニカルパスを使用してわかりやすい説明と丁寧な対応に心がけ、患者さんの希望に沿ったケアに努めた。

#### 3) 自己学習の啓発に努め、専門性を高める

院内外の研修に自主的に参加し自己学習に努めた。またスタッフ間で共有するために報告会を行った。

### 4 業務実績

1) 患者参加型カンファレンスを年間 109 件実施した

2) 整形外科における大腿骨地域連携パスを利用して、年間約 160 件転院した

3) 病棟勉強会を年間 7 回実施した

### 5 平成 27 年度の目標

「専門的知識・技術を向上させ、温かみのある医療を提供する」

(文責 大石 悦子)

## ■病院経営課

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
事務部長	杉沢 利次	課長	伊東 禎浩
経営企画担当調整主幹	春山 辰巳	経理情報担当主幹	金子 弘之
主査	木内 啓人	主査	宇佐美 雄二
主査	小林 桂	上席主事	内野 竜也
上席主事	小林 あゆ美	上席主事	木ノ内 宏治
医療人材室長(R)	佐野 光信	事務補助員(R)	齋藤 彩夏
事務補助員(R)	志田 奈穂子		

(R) は臨時職員

### 2 平成 26 年度の業務実績

#### <業務>

病院経営課は「病院経営の健全化を推進するため、経営分析及び経営改善を行う」、「病院の機能改善を推進するため、各種施策の企画立案と調整、病院職員の適正配置を行う」、「病院事業の予算を編成、執行を管理し、決算の調製を行い、資金計画を策定し管理する」及び「医療情報システムの管理運用を行い、病院の I T 化を推進する」の主要事業があり、以下の 7 事業を所管している。

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| (1) 中央病院経営健全化推進事業       | (2) 中央病院機能改善推進事業   |
| (3) 中央病院予算編成執行・会計決算調製事業 | (4) 中央病院会計出納管理事業   |
| (5) 中央病院情報システム管理事業      | (6) 中央病院 I T 化推進事業 |
| (7) 部内調整事業              |                    |

#### <実績>

経営企画担当では、経営改革推進委員会の事務局として、第二次中期経営改善計画の実効性を高めるため、平成 26 年度事業計画書を策定し、各項目に対する具体的な取組内容を院内周知するとともに進捗管理を行った。

また、地域がん診療病院の指定に向けて、指定要件を満たしていない課題について検討を行い、がん患者サロンや緩和ケア外来の開設などがん診療体制の充実を図った。

経理情報担当では、地方公営企業会計制度改正に伴い、退職給付引当金など各種引当金の計上義務化や、従来資本金として整理していた企業債を負債へ移行するなど新たな会計基準に対応した。

### 3 来年度の課題

経営企画担当では、第二次中期経営改善計画の事業計画の進行管理に取り組むとともに、新規事業に関する院内調整を図る。また、平成 28 年度の新公立病院改革プラン策定に向けて、前回改革プラン後の経営状況を経営効率化の視点で分析するとともに、県が策定する地域医療構想との整合を図るべく、県の動向に注視していく。

経理情報担当では、病院情報システムを適切に管理・運用することに加えて、院内の情報の電子化、共有化など IT 化を推進していく。また、平成 28 年度に予定している電子カルテシステムの更新作業に着手する。

(文責 伊東 禎浩)

## ■病院総務課

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
課長	白川 安俊	総務担当統括主幹	玉舟 正弥
施設物品担当統括主幹	中川 貴裕	人事担当主幹	帯津 百枝
施設物品担当主幹	塩澤 忠生	総務担当主幹	秋山 英希
主査	仲澤 実加	主査	高橋 克典
主査	齋藤 千賀子	主査	宇佐美 友紀
上席主事	井出 大介	上席主事	高橋 梓
主事	村松 真己子	業務員（R）	秋山 功
業務員（R）	加藤 猛	事務補助員（R）	松井 みゆき
事務補助員（R）	坪井 美千代		

（R）は臨時職員

### 2 平成 26 年度の業務実績

病院総務課の業務は、病院運営を円滑に進めるための管理事業を主な事業としている。総務担当、人事担当、施設物品担当の 3 担当を構成し、総務担当は病院全体の庶務・開設許可事項等の許認可申請、人事担当は人事・福利厚生関係、施設物品担当は施設整備や物品購入を主な業務としており、以下の 14 事業を所管している。

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| (1) 中央病院運営事業       | (2) 中央病院事務管理事業    |
| (3) 中央病院人材活用事業     | (4) 中央病院勤務条件整備事業  |
| (5) 中央病院給与支給事務事業   | (6) 中央病院職員福利厚生事業  |
| (7) 中央病院安全衛生管理事業   | (8) 中央病院職員研修事業    |
| (9) 中央病院市有財産管理事業   | (10) 中央病院環境整備事業   |
| (11) 中央病院院内保育所運営事業 | (12) 中央病院施設管理事業   |
| (13) 中央病院防災対策事業    | (14) 中央病院医療安全対策事業 |

### 3 来年度の課題

平成 27 年度は、4 月から精神神経科において常勤医師による外来診療を再開し、初期臨床研修医の受入れ体制を強化するなど、医師をはじめとした医療従事者の確保に取り組むとともに、高度で専門的な医療を提供するため、特定の看護分野で水準の高い看護が実践できる「認定看護師」の育成に努めていく。

また、病院施設の老朽化対策として、「老朽化現況調査業務」を行い、施設の現状を検証し、今後における整備の方向性を検討していく。

災害対策に関しては、災害拠点病院としての基盤強化を目的に、富士市地域防災計画及び富士市立中央病院地震防災計画に基づき、災害対策用設備及び資機材等の配備を進めていく。  
(文責 白川 安俊)

## ■医事課

### 1 スタッフ

役 職	氏 名	役 職	氏 名
課長	福良 孝生	看護長兼地域連携室長	齋藤 幸子
統括主幹	服部 俊明	副看護長	佐藤 美智子
主幹	寺田 和子	地域連携室主幹	岩垣 哲也
主査 (MSW)	江村 宏子	主査	小林 真紀子
主査 (MSW)	佐藤 理絵	主査	前嶋 健二
主査	伊藤 裕美子	上席主事 (診療情報管理士)	島田 英介
上席主事 (MSW)	遠藤 卓馬	主事補 (診療情報管理士)	齋藤 智恵美
主事補	名切 孝介	事務補助員 (R)	及川 智子
事務補助員 (R)	柴崎 香苗	事務補助員 (R)	遠藤 京子
事務補助員 (R)	佐野 一枝	通訳 (R)	鈴木 智美
渉外室長 (R)	加藤 裕司	医師事務作業補助者 (R)	生駒 久美子
医師事務作業補助者 (R)	佐野 由美子	医師事務作業補助者 (R)	清水 みどり
医師事務作業補助者 (R)	太田 智子	医師事務作業補助者 (R)	原田 祐紀
医師事務作業補助者 (R)	高室 まゆみ	医師事務作業補助者 (R)	杉山 美佐
医師事務作業補助者 (R)	古郡 直美	医師事務作業補助者 (R)	佐野 倫美
医師事務作業補助者 (R)	佐野 秀美	医師事務作業補助者 (R)	深沢 華子
医師事務作業補助者 (R)	望月 美咲	医師事務作業補助者 (R)	勝又 好恵
診療録管理事業 (R)	大石 裕子	診療録管理事業 (R)	小林 朱美
診療録管理事業 (R)	高橋 香苗	診療録管理事業 (R)	藤原 真里子
診療録管理事業 (R)	望月 麻衣		

※ (MSW) は医療ソーシャルワーカー、(R) は臨時職員

### 2 平成 26 年度の業務実績

医事課は患者に良質な医療及びサービスを提供するための受付等の窓口事務と診療報酬の請求を、地域連携室は患者の紹介受診に係る連絡調整などの病診連携業務や医療に関する相談を主な業務としており、以下の 12 事業を所管している。

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| (1) 中央病院窓口事業         | (2) 中央病院外国人患者対応事業 |
| (3) 中央病院診療報酬請求事業     | (4) 中央病院診療録管理事業   |
| (5) 中央病院医事統計資料作成管理事業 | (6) 中央病院地域医療連携事業  |
| (7) 中央病院医療福祉相談事業     | (8) 中央病院健康診断受付事業  |
| (9) 中央病院脳ドック受付事業     | (10) 中央病院患者相談窓口事業 |
| (11) 中央病院看護相談事業      | (12) 中央病院医師事務補助事業 |

## 教育・研修

医事課では、医療ソーシャルワーカー、診療情報管理士が、専門職としての質の向上を目指し、院外研修へ積極的に参加をしている。

### 医療ソーシャルワーカー研修

開催日	研 修 名	開催地
5/23-24	第 34 回日本医療社会事業学会・研究発表	日立市
5/31-6/1	日本精神保健福祉士協会基幹研修	名古屋市
6/7	静岡 MSW 研究会	沼津市
6/18	静岡県社会福祉士会司法福祉研究	静岡市
6/22	難病相談会	富士市
6/28	静岡県医療ソーシャルワーカー協会 東部地区研究会	三島市
7/6	静岡県社会福祉士会 実践研究セミナー	静岡市
7/26	静岡県医療ソーシャルワーカー協会東部地区研究会	沼津市
8/2-3	国立がん研修センター相談支援センター相談員基礎研修Ⅲ	東京都
8/30	静岡県医療ソーシャルワーカー協会 東部地区研究会	三島市
9/6	静岡 MSW 研究会	富士市
9/15	日本社会事業大学講座 ソーシャルワーク実践講座	東京都
9/18	富士 GSV 研究会・発表	富士市
9/20	静岡県社会福祉士会司法福祉研究	沼津市
9/27	日本医療社会福祉協会ソーシャルワークスキルアップ研修	神戸市
10/4	静岡県医療ソーシャルワーカー協会秋季研修会	静岡市
10/13	日本医療社会福祉協会ソーシャルワークスキルアップ研修	群馬県
10/15	静岡県 HIV 検査相談研修会	静岡市
10/18	WITH 医療福祉実践研究所	東京都
10/20	小児虐待講演会	富士市
10/25	静岡県立がんセンターがん相談員ワークショップ	静岡市
11/8	静岡 MSW 研究会	川崎市
12/14	日本医療社会福祉協会ソーシャルワークスキルアップ研修	東京都
1/24	第 3 回静岡県実践研究学会・研究発表	静岡市
2/14	医療講演会・相談会	富士市
2/21	静岡 MSW 研究会	富士市
3/7	静岡県医療ソーシャルワーカー協会冬季研修会	静岡市

### 診療情報管理士研修

開催日	研 修 名	開催地
5/17	診療情報管理士生涯教育研修会	埼玉県
5/24	診療報酬改定・機能分化セミナー	東京都
9/4-5	診療情報管理学会学術大会	岩手県
9/5	診療情報管理士生涯教育研修会	岩手県
9/6	DPC マネジメント研究会学術大会	東京都
10/18	食品栄養学部公開講座 ストレスと疾病	静岡県
10/23	DPC データ分析事例研究発表会	東京都
11/14-15	第 15 回クリニカルパス学会学術集会	福井県
11/28	院内がん登録実務者終了者研修会	東京都
11/30	診療情報アナリスト養成講座	東京都

### 3 来年度の課題

医学資料室に関しては、診療情報の質と精度の向上、高度な管理と活用により診療と病院経営を支援する組織としての機能を充実し、良質な医療の提供に繋げる。

地域連携室においては、地域の診療所等との間で役割を分担し、限りある医療資源の活用を図るため、病診、病病連携を推進し地域医療の充実に繋げる。

(文責 福良 孝生)